

産業文化研究

第33号

原著論文

共生社会における医療現場での外国人の異文化体験の様相と課題

..... 楊 麗 栄、久 保 宣 子 (1)

持続可能な観光地域経営のための中間支援活動の成果と考察

..... 井 上 丹 (10)

報告書

地域のためのSDGs、新聞エッセイシリーズ

..... バリー・グロスマン (18)

八戸学院地域連携研究センター

2023

共生社会における医療現場での外国人の異文化体験の様相と課題 —入院経験のある中・越・韓・比の在日外国人へのインタビュー調査から—

楊 麗栄・久保宣子

要旨

外国人医療現場において、「異文化の壁」は医療者と外国人患者に共通する課題の一つである。しかし、医療現場における国別外国人異文化体験の様相に関する研究は極めて少ないのが現状である。本研究はLeiningerに提唱された「文化ケア」の7つの要因を踏まえ、医療現場における中・越・韓・比の風習の相違と課題を明らかにし、異文化間の誤解などから生じる壁をこえる解決策を提案する。これによってトラブルを減らし、日本の医療者の外国人患者対応力を高め、負担軽減と医療サービス向上とともに、医療者に対する教育の発展に寄与することが期待できる。

キーワード……共生社会 医療現場 異文化の壁 文化ケア 中・越・韓・比

1. はじめに

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所(2023年)によると、2070年は日本の総人口が8,024万人になり、外国人の数は現在の2%程度から10%になる試算である¹。さらに「国籍・地域別の在留外国人数の推移」(2022)では、2014年以降は中国、韓国以外、ベトナム、フィリピンなど東南アジアの人数が堅調に増加していることがわかる²。日本は少子化かつ多国籍化に変化しつつあり、共生社会における異文化コミュニケーションは今後一層日常的な形態になっていくことが予測できる。

グローバル化が進む中、雇用、医療、福祉、出産・子育て等において、言語や文化慣習、宗教等の違いに起因する様々な問題の発生が懸念される。日本人と外国人が安心して安全に暮らせる社会を実現するため、「外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議」(2021)において、その総合対策の一環として、「医療・保健・福祉サービスの提供環境の整備等」の改善が提唱された。しかし、このような対策が施行されながらも医療現場における外国人の異文化体験の様相に関する研究は極めて少ないのが現状である。

本研究は「医療」に着目し、外国人医療現場での意思疎通を順調に行うために、医療現場における国別の風習の相違と課題を明らかにし、異文化間の誤解や、偏見などによって生じる異文化の壁をこえる解決策を探る。これによって、日本に在住する外国人に住みやすい生活環境を創出し、医療者の外国人患者対応力を高め、医療者の負担軽減と医療サービスの向上が期待される。

2. 異文化による外国人医療現場の問題点

外国人医療現場において、「異文化の壁」、「言葉の壁」は外国人患者のみならず、外

国人患者ケアに関わる看護師も様々な不安や困難を抱えている³(林・森 2002;寺岡・村中 2017;谷本・山崎・本谷・高山・中山・今泉・飯田・相馬 2020;原・柳澤 2020)。

久保・高木・野元・前野・川口(2014)は「異文化の壁」をなくすために、医療者は異文化に触れ、学び、そして具体的な事例共有は大事であると指摘する。また、寺岡・村中(2017)は医療者が外国人に対する文化的側面への注目が欠如していることを自覚する必要があり、形式された顕在文化ではなく、人間関係や物事の捉え方などの潜在文化への注目が必要であると指摘する。

しかし、以上のような研究はここ 30 年前後のことであり、特に医療者のための国別の「異文化様相」についての比較研究は極めて少ないのが現状である。

本研究は外国人医療現場での「異文化の壁」を砕き、意思疎通を順調に行うために、

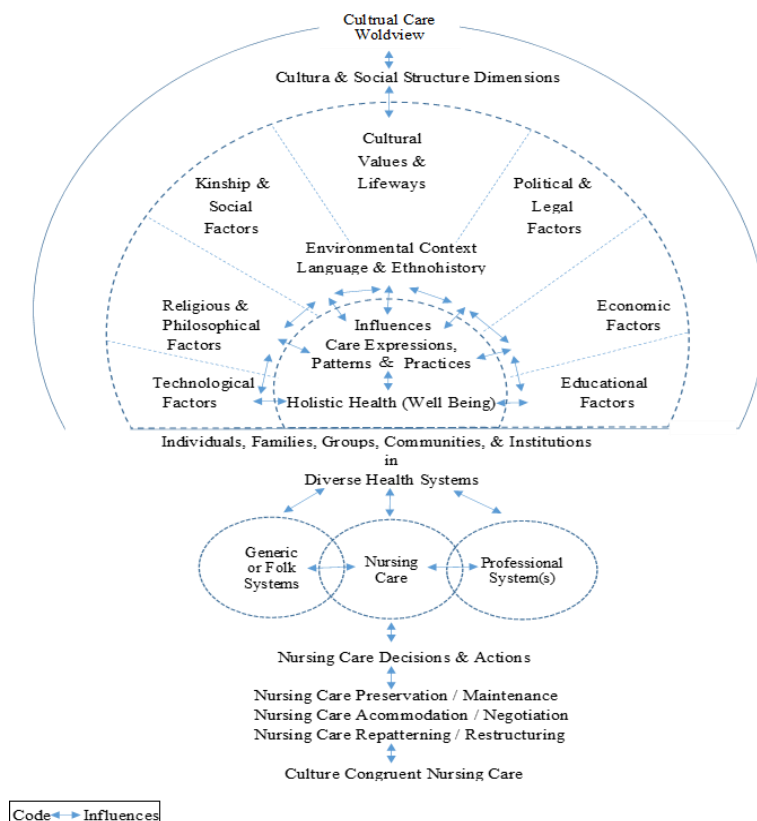


図 1 Leininger's Sunrise Model to Depict Theory of Cultural Care Diversity and Universality

(Leininger1991:43 による)
 レイニンガー(Leininger 1991)が提唱していた「文化ケア」を踏まえながら、医療現場における国別の風習の相違と課題を明らかにし、異文化間の誤解や、偏見などによって生じる異文化の壁をこえる解決策を探ることが目的である。

3. レイニンガーが提唱された「文化ケア」の意義

レイニンガー(Leininger1991:35)は「文化ケア」について、「ケアは看護の本質であり、看護の中心的・優先的・統合的焦点である」と主張し、さらに『Sunrise Model

『サンライズ・モデル』を用い、「文化ケア」の多様性と普遍性を説明した。『サンライズ・モデル』は図1で示したように、「文化ケア」は Technological Factors (技術的要因)、Religious & Philosophical Factors (宗教的・哲学的要因)、Kinship & Social Factors (親族・社会的要因)、Cultural Values & Lifeways (文化的価値・生活様式)、Political & Legal Factors (政治的・法律的要因)、Economic Factors (経済的要因)、Educational Factors (教育的要因)の7つの要因を含め、人間の生活様式の全体に焦点をあて、それらすべてを文化としてとらえている。

レイニンガー(Leininger1991:41)は看護計画を立て、意思決定し、健全で満足感をもたらすケアを提供するには、患者との接触により、「文化ケア」を維持、調整、さらに再パターン化や再構成する必要があると指摘する。また、「文化ケア」という理論は「多文化化が急速に進む世の中で、看護師は様々そして類似している文化背景をもつ人々を理解し、有意義なケアを行っていくために役立つことである」と主張する(Leininger1991:36)。つまり、看護師は患者を取り巻く文化や宗教、生活習慣、医療システムの相違など様々な問題を予測しながら、自文化と患者の文化を「良い悪い」で判断せず、文化に考慮したケアを提供することが大事であることがわかる。

4 研究方法

本研究は質的調査で行った。異なる文化風習を明らかにするため、調査項目は「文化ケア」の7つの要因を踏まえ、入院手続き、検査、入院中の生活、退院までの流れに沿ってインタビューガイドを作成した。

4.1 インタビューの対象者

母国語が日本語以外の中、越、韓、比出身者で、母国または日本での出産や手術による入院歴があり、現在も日本に在住する者(年齢と性別は設定なし)を対象とした⁴。また、対象者は、日本語での会話が可能であることを条件とした。

4.2 インタビューの方法

本研究はインタビューガイドを用い、2022年8月～9月に半構造化面接をZoomまたは対面で行った。インタビュー内容は、対象者の了解を得て録画、また携帯に録音し、記録・観察者は対象者の発言をメモとして記録した。インタビュー時間は1人あたり1～2時間程度とし、対面の場合は場所が対象者のプライバシーを考慮し、個室の研究室とした。インタビュー内容は、逐語録を作成し関連性のあるものをカテゴリー化し分析した。

4.3 調査項目

本研究では「文化ケア」の7つの要因を踏まえ、以下の14項目を設定し、調査を行った。①入院から退院までに印象に残ったこと、②検査を受ける際、自分の国と違う

と感じたこと、③入院手続きなどの困り事、④入院時の注意事項などの困り事、⑤入院した際の付き添い、⑥入院した際の食事、⑦入院中のシャワー浴、⑧医師の性別、⑨入院中の宗教による困り事、⑩入院時の困り事、⑪支払い方法、⑫入院中に最も強くストレスを感じた文化の違い、⑬入院時に心が温まったエピソード、⑭入院時に望む対応についてである。

4. 4 倫理的配慮

本研究は、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号:[22-12])。研究の目的、参加同意の自由、拒否時も不利益が生じないこと、個人情報管理の管理体制について口頭と書面で説明し最大の配慮を講じ、同意を得た。

4. 5 調査結果

対象は14名で、有効回答は12名(27~45歳、男性1名女性11名)であった。対象者の詳細は表1になる。

表1 研究対象者の概要

番号	国籍	年齢	性別	在日年数	日本語力	職業	母国での入院歴	日本での入院歴	入院の理由
1	中	34	女	9年	N1	美容アドバイザー	あり	あり	手術/出産
2	中	29	女	8年	N1	主婦	あり	あり	手術/手術
3	中	45	女	15年	N1	学校経営者	あり	あり	手術/出産
4	越	34	女	6年	N2	通訳	あり	なし	手術
5	越	33	女	14年	N1	会社員	なし	あり	出産
6	越	27	女	6年	N2	アルバイト	あり	あり	手術/出産(2回)
7	韓	44	女	20年	N1	教員	あり	あり	手術/手術・出産
8	韓	38	女	11年	N2	通訳	あり	あり	出産/手術
9	韓	40	男	16年	N1	教員	あり	なし	手術
10	比	27	女	4年	N2	訪問ヘルパー	あり	なし	手術
11	比	41	女	7年	N2	ALT	あり	なし	出産
12	比	34	女	4年	不明	介護士	なし	あり	出産

インタビューデータの分析結果から以下の7つのカテゴリーが見出された。①『医師の性別への戸惑い(文化的価値・生活様式等)』、②『面会と付き添いへの希望(親族・社会的要因等)』、③『食習慣の違い(文化的価値・生活様式等)』、④『シャワー浴への抵抗(文化的価値・生活様式等)』、⑤『母子同室に対する価値観』(文化的価値・生活様式等)、⑥『宗教に対する遠慮(宗教的・哲学的要因等)』、⑦『支払いに対する認識(文化的価値・生活様式、経済的要因等)』である。

『医師の性別への戸惑い』に関する問題は、中国の患者2名以外、表2で示されたように、ほぼすべての患者は男性医師の聴診や膣内検査などに大きく困惑した。特にフィリピンの患者は「びっくりした」、「恥ずかしくて、我慢していた」という言葉を使い、精神的に極度の苦痛を表現していた。

『面会と付き添いの現状と希望』に関する問題は、表3で示されたように中・越・韓・比のどの国も長時間の面会や、付添人の宿泊を望んでいるが、日本は制限が非常に厳しいとされる一方、母国(中国)からの面会者への配慮に感謝するとの答えがあった。

『食習慣の違い』に関する問題は、日本では産後冷やしそばやアイスなどの冷たい食べ物が出されるが、中、越、比では表4で示されたように、特に産後は冷たいものが禁物とされる。また、韓国を含む4か国は産後や術後にスープ類を食べる習慣がみられた。

『シャワー浴への抵抗』に関する問題は、日本は手術の種類によってシャワー浴の制限はあるが、基本的にシャワーを浴びることはできる。一方、中・越・比は表5で示されたように、シャワー浴開始時期は多様であるが、いずれの国の人も日本に合わせたシャワー浴には抵抗を感じていた。また、術後すぐにシャワーを浴びた

表2 『医師の性別への戸惑い』

カテゴリー	国別	内容
医師の性別への戸惑い	中	①婦人科でなければ大丈夫。 ②特に気にしない。
	越	①膣内検査は嫌だった。 ②胸の検査は女医がいい。
	韓	①エコーは大丈夫だったが、膣内検査は嫌だった。 ②気になる。
	比	①胸の検査の際びっくりした。 ②恥ずかしくて、我慢していた。

表3 『面会と付き添いの現状と希望』

カテゴリー	国別	内容
面会と付き添いの現状と希望	中	①面会が長いほうがいい。 ②母の長時間付き添いを許してくれた。 ③付添人の宿泊を許可してほしい。
	越	①面会の制限が厳しい。 ②母国では付添人が普通。
	韓	①面会が短くて厳しい。 ②家族全員の面会を望む。 ③付添人の宿泊を許可してほしい。
	比	面会が長いほうがいい。寂しかった。

表4 『食習慣の違い』

カテゴリー	国別	内容
食習慣の違い	中	①温かいものを食べる。 ②術後は刺激性のあるものを避ける。 ③鶏、豚骨スープ類を好む。
	越	①豚足、卵、肉と野菜をよく食べる。 ②冷たいものや海鮮料理は禁物。
	韓	①味の濃いものを好む。 ②産後、わかめ、牛骨スープを一か月間飲む。 ③甘いものを避ける。
	比	①産後、モリンガスープをよく飲む。 ②生姜スープは禁物。 ③冷たい水を飲んではいけない。

表5 『シャワー浴への抵抗』

カテゴリー	国別	内容
シャワー浴への抵抗	中	①傷がまだ治っていなかったので、シャワーを浴びるのが怖かった。 ②沐浴は1ヵ月後。暖かい格好をする。 ③しょうがなく浴びた。
	越	①沐浴は1週間~1ヶ月後。3か月ぐらいシャワーは5分以内。 ②風に当たらないように。 ③お母さんは私が出産翌日シャワーを浴びたことに驚いた。非常に心配していた。
	韓	①自然分娩は翌日からOK、帝王切開はNG。 ②産後はなるべくすぐしないようにと言われた。 ③冷たい風にあたらないように暖かい格好をする。
	比	①翌日の沐浴はNG。最初はびっくりした。 ②出産後すぐ沐浴すると関節に冷気が入る恐れがあるため、10日間浴びてはいけない。

ものの、「怖かった」、「びっくりした(驚いた)」、「しょうがなく浴びた」という感情表現が用いられた。韓国は自然分娩の場合、翌日のシャワー浴はさほど抵抗を感じられないが、中・越・比と同様冷たい風に当たらないようにまたは暖かい格好をする習慣がみられた。

『母子同室に対する価値観』に関する問題は、日本は母子同室の習慣があるが、一方、中・韓は産婦の回復のため、母子別室の習慣があり、ストレスを感じる人もいた。越と比は基本的母子同室であるため、いずれも言及していない⁵。

表6 『母子同室に対する価値観』

カテゴリー	国別	内容
母子同室に対する価値観	中	①母子同室はストレスが溜まる。 ②母国では母子別室の産後ケアセンターがある。
	越	特に言及なし。
	韓	①母子別室または産後ケアセンターを希望。 ②母国では母子別室である。
	比	特に言及なし。

『宗教に対する遠慮』に関する問題は、中・越は無宗教か仏教徒が多く、特に困ることは見られなかったが、韓国の患者は、牧師が病院でお祈りしてくれた時に周りの目が気になったと述べていた。

表7 『宗教に対する遠慮』

カテゴリー	国別	内容
宗教に対する遠慮	中	特にない。
	越	特にない。
	韓	牧師が病院でお祈りしてくれた時に周りの目が気になった。
	比	寝る前と起床後にお祈りする。

『支払いに対する認識』に関する問題は、日本の病院は退院前日に入院費が告知され、多くの人が不安を感じていた。また、クレジットカード決済やQRコード決済が普及されていない、現金のみの支払いも不便に感じていた⁶。

表8 『支払いに対する認識』

カテゴリー	国別	内容
支払方法への困惑	中	①現金のみでの支払いにびっくり。 ②母国ではクレジットカードや電子マネーが使い、便利。 ③事前にホームページなどで現金払いや、夜間、休日の料金の計算方法を教えてほしい。
	越	特に不便を感じなかった。
	韓	①現金のみとのことで驚いた。 ②韓国では最初に金額が教えられるが、日本では退院する前に言われるので、非常に心配。
	比	①通っていた病院ではクレジットカードは使えなかった。 ②入院費はもっと早く知らせてほしい。 ③金額は最初心配していた。

5. 考察

本研究は風習の相違から生じる種々の配慮の欠如が課題として明らかになった。異文化の壁をこえ、困惑や不安を軽減する解決策を以下のように提案する。

- ① 可能な限り医師の性別選択への配慮。調査結果で明らかのように、特に産科、婦人科の医師に対し、多くの患者が女医を望むことがわかる。宗教的、文化的価値、教育的要因などによって形成された性別への認識は簡単に消すことはできない。そのため、医師の性別を選択できる配慮をすることによって、患者の心身的な不安を大幅に軽減できると考えられる。

- ② 家族や友人と自由に連絡が取れる Wifi 区域の設置及び面会時間の緩和への配慮。「2022 年度医療機関における適正な電波利用推進に関する調査の結果」(2023)によれば、この3年間で無線 LAN の導入が急速に広がったものの、患者や外部訪問者のインターネット接続用は 41.7%にとどまっている。無線 LAN(Wifi)の導入・維持費用や、医療機器への影響など多くの課題が残っているが、Wifi 区域を設置することで、患者は気軽に病棟外にいる家族、友人とつながり、治療への不安やストレスの軽減などが期待できる⁷。また、生活様式、親族・社会的要因により、中・越・韓・比の四カ国は家族関係が比較的緊密であるため、他人に迷惑をかけないように面会時間を緩和することで、患者や家族に与える心身の健康への影響を軽減できると考えられる。
- ③ 国別食事メニュー選択可能への配慮。日本の多くの病院ではアレルギーや宗教上などの理由で複数のメニューから選択可能なメニューを用意している。しかし、国別の食事メニューを選択可能な病院はほとんど見られない。母国で大切にされている食習慣を取り入れることで、病気や出産などによるホームシックはある程度和らげられると考えられる。
- ④ シャワー浴開始時またはシャワー浴と体の関係の説明への配慮。中・越・比は特に産後のシャワー浴開始は遅く、一番早くてもベトナムの一週間後である。シャワー浴を早くしない理由としては、産後体が弱っているため、風邪をひきやすいとされている。日本では、感染症の予防や爽快感を得る理由から、出産翌日、または2、3日後のシャワー浴を指導している病院が多い。近年、産後の体は弱っているため、ぬるめのお湯の使用や体力保持という目的で短時間のシャワー浴、また冷えは体力の回復を遅らせることとし、浴室など暖かくすることが提唱されている。日本のシャワー浴と体の関係を対象者に丁寧に説明し、母国での慣習に折り合いをつけながら、適宜開始時間を遅らせることで、生活様式の違いに起因した患者のシャワー浴への抵抗やストレスを軽減できると考えられる。
- ⑤ 産後ケアの母子同室の時間短縮や母子別室への配慮。日本の多くの病院では出産後、愛着の形成や母親が早く、そしてスムーズに育児できるように、早期に赤ちゃんと同じ部屋で過ごすようにしている。一方、産後に心身の不調などで、母子同室は産婦に多大な精神的なストレスを与えていることが調査結果でも明らかである。産後の母子同室に対する考え方は、国によっても違いがある。そのため、産婦の身体的・精神的な不安定を軽減するには、母子同室の選択や同室時間の短縮が有効であると考えられる。
- ⑥ 支払う金額の事前告知と支払方法の選択肢の増設の配慮。治療費が不明なまま療養することは、不安要因の一つとなる。中・越・韓・比四カ国では診療費は前払いが多く、治療費が払えないことを理由に治療が受けられないケースもしばしば見られる。保険の加入状況や経済状況を配慮し、診療費などを事前告知

することによって患者の不安を軽減することが期待できる。また、クレジットカード以外の、電子マネーなどの支払い方法を増設することで患者の利便性が向上すると考えられる。

- ⑦ 礼拝する場所の用意など宗教への配慮。多国籍化が進む中、カトリックやイスラム教徒などが増加傾向にある。入院生活や治療に影響するような宗教的な習慣の有無を事前に確認する必要がある。お祈りは患者(信徒)の心を癒やし、慰めまた希望を与える行為であり、宗教、教育、文化的価値・生活様式要因に関連する「文化ケア」の一つである。そのため、お祈りができる場所を用意することで患者の精神的苦痛が和らげられことが考えられる。

6. まとめ

本研究はレイニンガーによって提唱された「文化ケア」の7つの要因を踏まえ、医療現場における中・越・韓・比と日本の文化の相違と課題を明らかにし、異文化間の誤解や、偏見などによって生じる異文化の壁をこえる解決策を提案した。これによって異文化によるトラブルを大幅に減らし、患者に気持ち良い療養生活環境を提供することが期待できる。さらに、これらの解決案は日本の医療者の外国人患者対応力を高め、医療者の負担軽減とサービスの向上とともに、医療者に関する「異文化教育」の発展に寄与することが期待される。

*本稿は、2023年第15回文化看護学会学術集会における口頭発表の内容に基づいて大幅に加筆修正したものである。

【謝辞】

本研究は JSPS 科学研究費基盤研究 C(研究課題：QR コードを活用した医療者向けの会話と異文化理解の「やさしい日本語」の教材開発、課題番号：22K00670)の助成を受けている。研究にあたって、日本に在住する外国人の方々から多大な協力を得た。ここに記して感謝する。

【利益相反】 開示すべき COI 関係にある企業・組織および団体等はない。

<注>

- 1 日本の将来推計人口(令和5年推計)結果の概要(https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023_gaiyou.pdf) (最終閲覧 2023年8月21日)。
- 2 国籍・地域別 在留外国人数の推移(https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00028.html) (最終閲覧 2023年8月21日)。
- 3 外国人医療現場において、「言葉の壁」、「異文化の壁」は医療者と外国人患者に共通する課題であるが、紙幅上の都合により、「言語の壁」については別稿で論じたい。
- 4 日本に在住する外国人(国籍別)ランキング4位までの国、中、越、韓、比の四か国の人を対象とした。(令和4年6月末現在における在留外国人数について <https://www.mo>

j.go.jp/isa/publications/press/13_00028.html) (最終閲覧 2023年8月31日)。

5 ホーチミンで妊娠&出産しました②出産～入院編 (<https://iconicjob.jp/blog/vietnam/c-hildbirth>) (最終閲覧 2023年8月21日)。

6 厚生労働省(2023)が実施した「医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査結果報告書」によれば、クレジットカードを利用した決済の導入は60.9%、QRコードを利用した決済の導入は5.2%である。

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001126229.pdf>) (最終閲覧 2023年8月24日)。

7 2022年度医療機関における適正な電波利用推進に関する調査の結果 (https://www.emcc-info.net/medical_emc/pdf/23_220_R4_questionnaire_hstl_v0713.pdf) (最終閲覧 2023年8月24日)。

<参考文献>

久保陽子・高木幸子・野元由美・前野有佳里・川口貞親 2014 「日本の病院における救急外来での外国人患者への看護の現状に関する調査」『厚生指標』第1号, 17-25.

谷本真理子・山崎千寿子・本谷園子・高山裕子中山純果・今泉一哉・飯田恭子・相馬泰子 2020 「日本人看護師の外国人患者対応力向上に向けた実践的課題探究の取り組み」『東京医療保健大学紀要』第1号, 145-152.

寺岡三左子・村中陽子 2017 「在日外国人が実感した日本の医療における異文化体験の様相」『日本看護科学会誌』Vol.37,35-44.

林麻衣子・森淑江 2002 「外国人妊婦の外来診療に対するニーズの調査」『群馬保健学紀要』23,101-108.

原明子・柳澤理子 2020 「日本人看護師が外国人患者をケアする上で必要な能力: 文献レビュー」『愛知県立大学看護学部紀要』Vol.26,17-28.

Madeleine M. Leininger (1991). *Culture Care Diversity and Universality: A theory of nursing*. New York: National League for Nursing Press.

持続可能な観光地域経営のための中間支援活動の成果と考察

井上 丹

1. はじめ

観光による地域活性化が望まれているが、観光振興による持続可能な地域経営を目指すには、観光による「交流人口」拡大から「関係人口」創出までを目的とした事業の構築を検討すべきである。また、持続的に観光振興事業を実施していくためには、観光事業関係者だけでなく地域住民や地域事業者が連携して事業を担っていく必要がある。特に地方の観光地においては、少子高齢化や労働人口減少による観光産業の人手不足の課題が重くのしかかっており、このまま担い手が足りない状況が続けば、観光産業存続の危機に陥りかねない(*1)。

本稿は、青森県を代表する観光地である青森市浅虫地区(以下、浅虫という)を対象に、持続可能な観光振興を目的とした事業の企画運営方法を検討し、地域内外の協力者と連携協働しながら実践するという活動を3カ年継続した。特に、地域全体の利益を目的として地域事業者と協働した観光振興企画「あさむし月末マルシェ(以下、マルシェという)」を継続的に実施した(*2)。このマルシェの企画運営の中心となったのが、地域住民や地域事業者、外部からの協力者で構成される任意団体「浅虫まちおこし応援団がっちゃんこ(以下、まちおこし団体)」であり、このまちおこし団体がさらに地域外からの協力者を加えて協働することで、事業運営に関わり続ける関係人口創出につながる事がわかった。

事業を継続してきたことで、まちおこし団体にはマルシェへの出店希望や、地域外から新たな企画やイベントの問い合わせを受け付けるようになったが、実施に向けては地域事業者や地域団体との調整が必要であり、さらに企画運営の担い手不足を解消しなければならない。この課題を解決すべく、外部からの相談窓口を設け、地域の調整と運営への参加者の募集、そして企画実施の支援を行うような中間支援活動とそれを担う中間支援組織が必要であると考え、その仕組みの構築を目指して取り組んだ事業の成果と考察をまとめる。

2. 中間支援活動と中間支援組織について

中間支援活動の定義については、2016年に国土交通省がまとめた「地域づくり活動支援体制の活動内容について」(*3)において、「地域の行政や金融機関、NPO¹、企業等の地域の多様な主体がお互いのメリットを生かすとともに、互いの不足要素を補い合いながら協力・連携し、安定して継続的に『地域づくり活動』を支援すること」とされている。その中で地域づくりにおける中間支援活動は大きく3つに区分され、「i. 観光振興、移住・定住促進等、外部から人や資源を呼び込み活性化を図る支援」、「ii. 地域資源を活用したブランド化等により、地域のにぎわいづくりや活性化につなげる支援」、「iii. 高齢者の生活支援、子育て環境の改善等、地域住民の暮らしを支える生活支援」となっている。本事業で実践してきた浅虫における観光振興・地域づくり活動は、上記でいう i と ii に当てはまる。

また、中間支援に求められる重要な機能・役割として3つ述べられており、「①『点』の地域づくり活動を『線』・『面』につないでいく」、「②地域づくり活動をビジネスとして成立させるために必要となる視点、要素を把握する」、「③担い手と同じ目線で伴走する第三者的存在が求められる

¹ NPO (Non-Profit Organization) とは、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない法人格を持つ団体および法人格を持たない任意の市民活動団体のことを指す

る」とされている。浅虫のまちおこし団体は、マルシェを通して上記の3つの機能を果たしてきた。しかし課題として、支援を行う案件が出るたびに関係者と連絡を取り合い、その都度、進め方の協議や合意形成を図りながら進めていたため、効率性に欠け、継続的に質の高い支援を行うことが難しくなることが考えられる。今後は中間支援に取り組むための体制を組み、日頃から意見交換を行いながら互いの理解を深めるとともに、中間支援における役割分担を明確にして一体的に取り組むことが求められる。

次に中間支援組織について、2001年に内閣府が実施した「中間支援組織の現状と課題に関する調査」(*4)では、「多元的社会における共生と協働という目標に向かって地域社会とNPOの変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とNPOの仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織」が中間支援組織とされているが、いろいろな捉え方があり必ずしも明確に規定された定義があるわけではない。若菜(*5)によれば、近年の時代背景と環境変化で中間支援は多様化し、今後とも必要性が高まると述べられている。実際に2019年の内閣府「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」(*6)では、地方創生を担う人材・組織の育成のためには、「地域住民等で構成される地域運営組織や地域商社といった組織等や、こうした組織等の支援を行う中間支援組織の役割が重要である」と述べられており、表1のような中間支援組織のタイプに分類されている。

浅虫の場合、産業支援系については、2023年6月に設立された観光地経営会社(DMC²)が担うと考えられるため(*7)、求められる機能としてはコミュニティマネジメント系と地域人づくり系と言える。まちおこし団体がこれまでの中間支援活動で培ってきた機能に加えて、これらの機能を備えた中間支援組織の構築を目指し、2023年度の事業を計画した。

表1 中間支援組織のタイプ分類 (資料:内閣府(*6)より引用)

分類	概要	主な取り組み
①産業支援系	地域資源を活用した新たな産業の創出を通して、地域の課題解決を推進する。金融機関・商工会議所など地域の既存機関とも連携して、起業支援及び既存企業の新規事業開発支援、事業承継等を推進する。	地域企業支援 事業承継 起業支援 特定事業型(地域商社/観光DMO ³ 等)
②コミュニティマネジメント系(関係人口系)	地域の魅力を発信し、外部から人材や組織等の資源を呼び込むことで、地域内の担い手の活性化や、地域課題の解決に取り組む。また、地域内外のハブ的役割を担い、地域のオープンイノベーション ³ も推進する。	起業支援 リビングラボ 移住支援 関係人口(インターンシップ/副業兼業等)
③地域人づくり系	社会教育主事等による地域住民の育成や、高校や大学等の既存の教育機関と連携し、地方創生を担う人材育成の取り組みを推進する。	高校魅力化コーディネーター 住民自治組織

3. 2023年度の事業概要

² DMC (Destination Management Company) および DMO (Destination Management Organization) とは、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定、実施するための調整機能を備えた法人を指す

³ オープンイノベーションとは、従来の自前主義(クローズドイノベーション)に代わり、組織外の知識や技術を積極的に取り込むことを指す

浅虫における中間支援組織の構築を目指し、外部相談窓口となるような拠点を設け、新規の観光振興・地域づくり活動について関係者と調整する。そして活動の担い手として、地域活動に興味関心がある大学生や高校生に協力を求める。この体制で持続可能性があるかどうか考察するとともに、関わった大学生と高校生が地域の関係人口となるか調査する。

まず、観光振興イベント、マルシェへの出店など、浅虫だからこそ試したいという企画を持つ外部からの提案者を集める。次に、地域づくり活動を経験したいという大学生や高校生を募集し協働者として仲間に加え、企画提案者を伴走支援しながら実施内容を計画し、実行、振り返りを行い、浅虫での継続的な実施方法を検討する。

中間支援活動としては上記のまちおこし団体の協力を得て、参加者の募集と協議する場を設置し、全体のマネジメント、関係者との調整、集客のための広報、実施運営補助を行う。2023年4月から企画の募集開始と体制づくり、6月から協力する大学生や高校生を募集し、7月から10月にかけて企画の試験実施、11月までに振り返り、12月に今後の方向性を検討する流れで設計した。

4. 主な事業内容と結果

(1) 中間支援組織の拠点整備

浅虫のまちおこし団体は、任意団体かつ構成員はそれぞれ本業を持つため、拠点となる場所は持っていなかった。それ故に案件ごとに場所を借りたり、協力者の元へ行ったりと効率が良くなかった。そこで今回は、中間支援組織の活動拠点として、空き物件を再活用した「浅虫がっちゃんこセンター（以下、センターという）」を設置することにした。場所は浅虫の中心部に位置するため、地域内で活動する際に便利なところで、打ち合わせスペースの他、物品を多く保管できる部屋があり、外部相談窓口としても活動拠点としても十分な場所となった。



写真1 中間支援組織の活動拠点

(2) 外部から人や資源を呼び込み活性化につなげる

ア) ティラノサウルスレース実行委員会

外部からの観光振興企画として、ティラノサウルスレース実行委員会（以下、実行委員会という）から協力の依頼があった。ティラノサウルスレースとはティラノサウルスの着ぐるみを着て走るという競技であり、その見た目、競技のシンプルさから人気を博し海外発祥でありながら日本でもまちおこしの一環で行われる程の人気を得ている。青森県内各地で実施している実行委員会から、浅虫での開催について相談があった。

前年度もサンセットビーチあさむしで開催したが、地域内の協力があまり得られず運営に苦労したという。今年度は浅虫町会のイベントへの協力など、浅虫の地域づくりに貢献していた実行委員会に伴走する形で中間支援を行うことになった。地域事業者や地域の公共施設の利用について調整し、7月のイベント当日には運営補助として県内の大学生に協力を依頼した。その結果、

前年度を上回る参加者、来場者となったうえ、スムーズな運営ができ、実行委員会の負担も軽減できて満足度の高いイベントとなった。開催の様子は写真2の通りである。



写真2 協働で実施したティラノサウルスレースの様子

イ) マルシェの広報活動と新規出店

観光振興企画として実施しているマルシェは、外部からの出店協力を得ながら3年目となる2023年度も毎月開催していた。マンネリ化を防ぐために、道の駅の駐車場会場だけでなく、道の駅内の3階フリースペースも借りて出店数を増やしたり、定期的に新規の出店を募集したりと工夫を重ねながら運営を継続しており、地域の賑わいづくりに貢献していた。その成果から、まちおこし団体は浅虫での地域づくり活動を紹介する機会が増えて、教育機関からの講演依頼を受けるようになった。その際に伝えていたのは、マルシェは売上目的だけではなく、地域活性化のための企画であり、共に地域づくりに協力する関係者をいつでも募集しているということであった。その際に、口頭だけでの説明では雰囲気が伝えにくいとため、外部の協力者と連携して、マルシェの動画制作、発信を行った。

この広報活動の影響で、新規出店の依頼が増え、弘前市内の大学生に講演をした後には、参加した学生からマルシェで出店したいという相談を受けた。まちおこし団体が丁寧な中間支援を行いながら、学生ならではのアイデアや工夫を凝らした出店が実現し、学業に支障がない範囲で多くの月に出店していたうえ、マルシェ以外の地域づくり活動にも参加した。

ウ) 浅虫に関わってきた大学生による海の家

浅虫では7月中旬から8月中旬までの夏休み中に海開き期間として、サンセットビーチあさむしでの海水浴が可能となる。例年この海開き期間中にビーチには、海の家と呼ばれる仮設のテイクアウト専門の飲食店が出店していたが、コロナ禍で出店できなかった年が続き担い手がいなくなっていた。そこで観光協会からの相談があり、マルシェを運営していたまちおこし団体が今年度、海の家を設置することになった。ただ、まちおこし団体のメンバーだけでは、期間中常に対応することが難しいため、これまでマルシェの運営を手伝っていた大学生たちに海の家の運営を任せることにした。

活動経験が長い弘前市内の大学院生をリーダーとして、学生9名が参加した。まちおこし団体は中間支援として、地域関係者との調整、海の家の運営に必要なプレハブや発電機の手配、飲食メニューの衛生管理を担い、学生たち



写真3 海の家開催の様子

今年度の夏は猛暑日が多かったが、学生たちはシフトを組み、悪天候による営業休止以外の日程を問題なく実施した。この事業を通して、学生たちのコミュニティができ、その後も浅虫に継続的に関わるようになった。

エ) センターの有効活用

活動拠点として整備したセンターを有効活用する企画提案があった。まちおこし団体は、浅虫まちづくり協議会と連携して、浅虫が学区である青森市立東中学校の地域探究科の授業を積極的に支援していた。その中で美術部の生徒たちが、センターの風除室のガラスにステンドグラスを貼り、まちの景観向上に貢献した(写真4)。

また、青森市交流推進課の国際交流員である台湾出身者から、台湾紹介展「台湾知りたいわん」の開催依頼があり、センターを会場として貸し出した(写真5)。その際にまちおこし団体のメンバーである近隣の飲食店も支援し、ポスター等を一部展示したり広報案内したりと協力した。年末年始の開催となり、来場者は多くはなかったが、センターの有効活用という可能性が見えた。



写真4 ステンドグラス設置の様子



写真5 台湾展示会の様子

(3) 人材育成の取り組み

ア) 高校の総合的な探究の時間との接続

2023年度から青森県内すべての県立高校では、総合的な探究の時間において「あおもり創造学」という内容で探究学習に取り組んでいる。その授業では、青森県内の地域課題について調査したり、実際にフィールドワークを行ったりして地域の理解を深め、将来的には地域で活躍する人材育成につなげる方針で進めている。その流れで、地域づくり活動を経験したいという高校生が増えており、浅虫でも何度かフィールドワークを受け入れていた。そこで、単に授業として参加するだけでなく、継続的に浅虫で地域づくり活動を行いたいという高校生を募り、中間支援活動の協働者として仲間に加えるための仕掛けを考えた。

はじめに、認定NPO法人カタリバが取り組んでいる実践型探究学習プログラム「高校生マイプロジェクト」(*8)を参考に、浅虫での地域づくり活動を通して探究活動を進められるプログラムを構築し、これまでの実績や関係がある高校へ案内した。しかし高校からの反応はなく、今年度の高校生の参加は見込めないことから、今後の対応方法を検討するために、高校の探究支援に関わっている関係者を浅虫に集めて協議することにした。

現役の高校教員や学校関係者、他の市町村で地域づくり活動を実践している専門家、そして大学生と多様な属性の参加者が集まった。2日間にわたる協議の結果、現状で高校生が地域づくり活動に直接参加し続けることはハードルが高く、まずは高校教員の理解を得られるように探究活動の中間支援を行っていくことが重要であるという結論に至った。その後はいったん高校生を対象から外し、次に述べる大学生の参加を中心に進めることにした。

イ) 大学の研究活動との接続

浅虫で実施してきた事業では当初から多くの大学生が関わっていた。特にマルシェを開催した際には、大学のゼミ活動やサークル活動の一環として、団体単位での参加が多く、事業運営には欠かせない存在となっていた。その際にまちおこし団体は、大学生たちに単なるアルバイトとして手伝うのではなく、地域づくり活動に参加し、地域活性化に直接関わることで、大学生生活の貴重な経験の場にしてほしいという理念を伝えており、大学生も目的を理解して参加していた。

活動に参加していた一部の学生からは、卒業研究や論文のテーマとして浅虫を題材にしたいという相談があった。また、大学卒業後の進路として、地域づくり活動を職業としていくためにはどうすればよいのかという相談もあった。相談に応えた結果、地域づくりを更に研究していきたいと大学院に進学した学生や、仕事として地域づくりに関わりたいと地方公務員を受験した学生が現れた。一方で、大学卒業後は県外に就職したり、県内企業であっても休日が固定ではない仕事だったりという理由から、浅虫の地域づくり活動に参加しなくなった学生もいた。卒業後も継続的に関わるための仕組みづくりという点では課題が残った。

このように、まちおこし団体が大学生の相談に真剣に応えることで、中間支援組織に求められる人材育成機能を果たしていたことが明らかになった。大学の研究活動の一環として地域づくり活動に参加し、それが大学生のキャリアに接続していけば、学生個人の成長につながるだけでなく、今後地域づくり活動を担う人材となることが考えられる。

5. 事業成果と考察

(1) 中間支援活動の実績から

まず、持続可能な観光地域振興を目指す事業として開催してきたマルシェを中間支援活動として捉え直すと、開催目的や企画運営方法、外部協力者の参加、そして集客という成果から、これまで十分に実績を残してきたことがわかった。事業を担ってきた浅虫のまちおこし団体は、地域事業者や地域住民から頼られる存在になり、さらに外部からの相談を受けるようになった。

そして、まちおこし団体の方から積極的に外部へ協力を求めたところ、地域資源の再発掘や有効活用につながる企画が新たに実施され、地域外からの人や資源を呼び込み活性化につなげる支援となった。特にサンセットビーチあさむしでは、これまで海水浴客が海開き期間にだけ訪問するような場所だったが、他に目玉となるようなイベント開催や、ビーチでの出店という形で新たな価値を創出できた。

また、イベント運営を中心に、直接サービスを受ける来訪者(受益者)がお金を使うような内容にして、さらにマルシェの出店者のような支援された関係者が、売り上げの一部を中間支援活動の資金として地域関係者に支払うような形になってきており、地域づくり活動をボランティアで終わらせるのではなく、ビジネスとして継続できるような仕組みにしていこうという点においても成果が出ている。

(2) 中間支援組織としての役割

上記の中間支援活動を担ってきたまちおこし団体は、浅虫における中間支援組織としてどのような立場になっていたのかを考察する。地域の課題としては、地域の主力産業である観光業の衰退や人口減少、少子高齢化によって地域の賑わいが減っていたことと事業の担い手不足があった。また、地域活性化に向けて観光協会とまちづくり協議会がそれぞれ活動していたが、お互いの連携が取れておらず、継続性が課題であった。

この地域課題を解決すべく立ち上がったまちおこし団体は、まず方針として、地域に関わる人や組織をつなぎ、地域づくり活動を応援するという立場であることを掲げていた。自分たちが新たに何かを起こすわけではなく、あくまでも既にある活動に参加したり、地域資源の有効活用を考えたりするところから始まり、地域関係者と積極的にコミュニケーションを取っていた。そして、地域内では人材という点で限界があることから、地域外から人材を呼び込み、さらにその人材が待つスキルや能力を活かせる場として始めたマルシェは、地域の賑わい創出に貢献しただけなく、新規出店者が現れ、関わった大学生の育成や関係人口創出にもつながったことから、オープンイノベーションの場になっていたと言える。

また、大学や高校といった教育機関と積極的に連携を試み、地域づくりに興味関心を持つ学生を増やそうという活動を実施しており、まだ大きな成果にはつながっていないが、地方創生を担う人材育成に取り組んでいたとも言える。よって、浅虫のまちおこし団体は、表1でいうコミュニティマネジメント系（関係人口系）と地域人づくり系の機能を持つ中間支援組織としての役割を担っていると言える。

この成果から、観光地における中間支援組織の役割を図1のように整理した。観光地の場合、宿泊施設や飲食店等の企業で組織されるNPOとして観光協会がある。また、地域住民を中心に組織されるまちづくり協議会や、行政が運営する公共施設等もNPOに分類できる。資源提供者が直接受益者にサービスを提供しても、一組織としては限界があるため、地域全体の利益を求めてNPOが地域づくり活動を行う。そしてNPOでも継続が難しい事業に対して、中間支援組織が支援やコーディネートを行う。さらに外部協力者が現れた場合、NPOに直接言うことが難しくても中間支援組織が窓口となり受け入れ体制を整備する。すると中間支援組織と共に活動し、人材育成や関係人口創出につながる。さらに受益者である観光客の中から、その観光地のファンとなり応援し続ける者が現れると、その人は資源提供者として外部協力者になっていくという循環ができる。

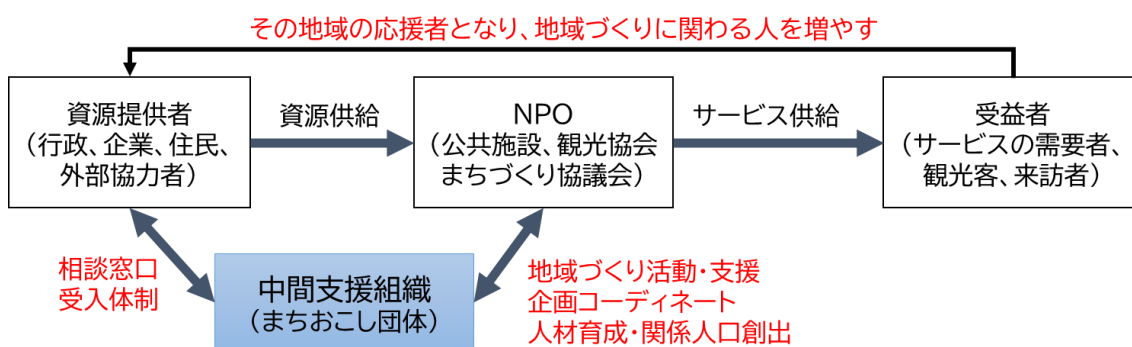


図1 観光地における中間支援組織の役割（内閣府資料(*4)を参考に作成)

(3) 地域における中間支援の展望

これまで述べてきた通り、中間支援組織は多様化しており、時代背景や地域特性によってその機能や役割は変化し続ける。また、地域づくり活動や人材育成は長期的な取り組みとなることから、継続性も求められる。そこで浅虫のまちおこし団体は、青森県南部町で長期的に中間支援活動を実践している合同会社南部どき(*9)と特定非営利活動法人学びどき(*10)の経営者である根市大樹氏を交えて、今後の浅虫における中間支援をどうしていくべきか議論した。

根市氏による南部町三戸駅前での活動によると、観光地ではない地域であっても、地域資源を有効活用し、地域の協力者を巻き込めば、賑わい創出が可能であることがわかった。その際に、

地域内で局地的に明らかな変化を創るエリアリノベーション⁴や、中間支援組織だけでなく地域関係者や住民を含めたコミュニティの形成が重要であることがわかった。

また、空き家を有効活用するためのマッチングや将来の地域を担う地元の小中学生の支援など、今後の浅虫においても課題となる案件について既に解決に向けて実践しており、その取り組みから学ぶことは多い。浅虫は温泉観光地という特性から、観光振興や地域の賑わいづくりは取り組みやすい中間支援活動であったが、もう一つの「高齢者の生活支援、子育て環境の改善等、地域住民の暮らしを支える生活支援」という点においては実施できていないうえに担い手も不足している。地域産業や地域づくり活動を支える中心となるのは地域住民であり、住民が住み続けられる地域づくりを支援していくことが、今後のまちおこし団体には求められる。

6. おわりに

本稿は、持続可能な観光振興・地域づくりのために、外部から人や資源を受け入れるための相談窓口を設け、地域側の調整と事業企画運営の参加者の募集、そして企画実施の伴走を行うような中間支援活動と、それを担う中間支援組織のあり方について検討してきた。

浅虫でのまちおこし団体が実施してきた地域づくり活動は、地域への来訪者増加や、事業運営に関わる関係人口創出という成果を出し、さらに地域資源の有効活用、次世代を担う大学生の人材育成という結果も出ており、中間支援組織としての機能を持っていることがわかった。

なお本稿は、あくまでも浅虫という狭い地域での考察となるが、日本全国で同じ課題を抱えている温泉観光地は多いと考えられる。本研究が他の地域でも応用され参考になれば幸いである。

謝辞

本事業は、令和5年度青森学術文化振興財団の助成を受けたものである。

参考文献・資料

- (*1) 井上丹, 2019, 八戸学院大学紀要第60号, 「持続可能な観光地域経営のための関係人口創出に向けた活動——地域資源を組み合わせた観光企画による交流拡大から——」
- (*2) 井上丹, 2022, 八戸学院地域連携研究センター産業文化紀要第32号, 「持続可能な観光地域経営のための地域内外の連携協働による事業成果と考察」
- (*3) 2016, 国土交通省, 平成28年度における地域づくり活動支援体制の活動内容について
- (*4) 2002, 内閣府, 平成13年度中間支援組織の現状と課題に関する調査
- (*5) 若菜千穂, 2018, 農村計画学会誌 Vol. 36, No. 4, 「中間支援に期待される役割と中間支援組織の実態—岩手県および秋田県における中間支援の現場から—」
- (*6) 2019, 内閣府, まち・ひと・しごと創生基本方針2019
- (*7) 東奥日報, 2023年6月1日朝刊, 浅虫温泉地区活性化へ異業種出資で会社設立
- (*8) 認定NPO法人カタリバ, 高校生マイプロジェクト, <https://myprojects.jp/>, (参照 2024-02-05)
- (*9) 合同会社南部どき, <https://nanbudoki.com/>, (参照 2024-02-05)
- (*10) 特定非営利活動法人学びどき, <https://manabi-doki.com/>, (参照 2024-02-05)

⁴ エリアリノベーションとは、空き店舗や空き家の再生、公共施設・空間の再整備、それらをフィールドとするイベント開催やコミュニティ活動などを通じて、特定エリアの魅力と価値を高め、活性化させていくまちづくり活動のことを指す

Report: SDGs for the Community; Newspaper Essay Series

Dr. Barry Grossman

The Sustainable Development Goals (hereafter *SDGs*) are part of the United Nations initiative to guide individuals, companies, non-profit organizations, non-governmental organizations and governments in the direction of a more equitable, livable world. Officially called *Transforming Our World: the 2030 Agenda for Sustainable Development*, its preamble states:

This Agenda is a plan of action for people, planet and prosperity... The 17 Sustainable Development Goals... demonstrate the scale and ambition of this new universal Agenda... They seek to realize the human rights of all and to achieve gender equality and the empowerment of all women and girls. They are integrated and indivisible and balance the three dimensions of sustainable development: the economic, social and environmental (<https://sdgs.un.org/2030agenda>).

In Japan, the SDGs are a popular educational topic in classes from primary school through university, and it was the author's hope that a regularly-appearing newspaper article would also help to stimulate discussion and action on climate and humanitarian crises facing the world today.

With this in mind, I approached the university in July of 2022 with the idea of writing a newspaper essay series outlining and exemplifying each of the SDGs in turn. It was then suggested by Professor Ichinohe, head of the Hachinohe Gakuin University SDGs Project Team, that we approach the Daily Tohoku News and propose the idea to them. The initial meeting with the newspaper was held on October 25, 2022 and included three members of the university; Prof. Ichinohe, Mr. Matsuyama (Hachinohe Gakuin Regional Cooperative Center Chief) and myself. I submitted an example essay to the newspaper editors as proof of concept, and the following month a positive response was procured, whereafter the details of the essay contents were negotiated.

The first article, the Prologue, appeared on January 21, 2023 and the final article, the Epilogue, appeared on November 6, 2023. These two essays plus each of the 17 SDG essays came to a total of 19 articles in the series, published twice a month over the course of ten months. Each article was about 200 English words in length and consisted of a basic explanation of the particular SDG (including some relation to the local area), a Japanese translation of the essay, a gloss of a few of the most difficult vocabulary items, a picture (taken by myself) or drawn scene (created by the newspaper artist) related to the essay, and a QR Code and Web address link to digital activities.

The essays were submitted and published on a two-week schedule. The articles appeared on the first and third Saturday from January until March, and the first and third Monday from April through November. The digital activities were created by the author and were part of an online English Learning Management site called *ZenGengo* (advanced permissions previously granted by owner/director). "ZenGengo features 10 engaging and interactive assignment types that have been specially designed for language learning. Assignments cover all 4 language skills: listening, reading, writing, and speaking" (<https://www.zengengo.com/our-service>).

The following pages contain each of the essays as they appeared in the newspaper (all appropriate permissions granted by Daily Tohoku Newspaper).

地域のための SDGs、新聞エッセイシリーズ

バリー・グロスマン

持続可能な開発目標（以下、SDGs）は、個人、企業、非営利団体、非政府組織、政府を、より公平で住みやすい世界へと導く国連のイニシアティブの一環である。正式には「私たちの世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」と呼ばれ、その前文には次のように記されている。

このアジェンダは、人と地球と繁栄のための行動計画である... 17 の持続可能な開発目標は... この新しい普遍的なアジェンダの規模と野心を示している... それらは、すべての人の人権を実現し、ジェンダーの平等とすべての女性と女兒のエンパワーメントを達成しようとするものである。これらは統合的かつ不可分であり、持続可能な開発の 3 つの側面、すなわち経済、社会、環境のバランスをとるものである
(<https://sdgs.un.org/2030agenda>)。

日本では、SDGs は小学校から大学までの授業でよく取り上げられる教育テーマであり、定期的に掲載される新聞記事が、今日世界が直面している気候変動や人道的危機に関する議論や行動を喚起する一助にもなれば、というのが筆者の願いだった。

このような思いから、私は 2022 年 7 月、SDGs の各項目について順番に概説し、例証するエッセイを連載することを大学に持ちかけた。そして、地元の新聞社にアプローチし、このアイデアを提案することが提案された。デーリー東北新聞社との最初のミーティングは 2022 年 10 月 25 日に行われ、大学からは一戸氏（学長補佐であり、大学の SDGs イニシアティブのリーダー）、松山氏（大学の地域連携センター長）、そして私の 3 人が参加した。そして翌月には快諾を得ることができ、その後、エッセイ内容の詳細について交渉が行われた。

最初の記事「プロローグ」は 2023 年 1 月 21 日に、最後の記事「エピローグ」は 2023 年 11 月 6 日に掲載された。この 2 本のエッセイに 17 本の SDGs エッセイを加えた計 19 本のエッセイが、10 ヶ月にわたって月 2 回掲載された。各記事は約 200 語の英文で、地域との関連性を含む特定の持続可能な開発目標（SDGs）の説明、エッセイの日本語訳、難しい語彙の小さな用語集、エッセイに関連する写真（私が撮影）または絵（新聞社のアーティストが作成）、デジタル活動への QR コードとウェブ・アドレスのリンクで構成されていた。

エッセイは 2 週間のスケジュールで投稿・掲載され、1 月から 3 月までは第 1・第 3 土曜日、4 月から 11 月までは第 1・第 3 月曜日に掲載された。デジタル・アクティビティは著者が作成したもので、ZenGengo と呼ばれるオンライン英語学習管理サイトの一部である（オーナー／ディレクターから事前に許可を得ている）。「ZenGengo の特徴は、言語学習のために特別にデザインされた、10 種類の魅力的でインタラクティブな課題です。課題は、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの 4 つの言語スキルすべてをカバーしています」(<https://www.zengengo.com/our-service>)。

以下のページには、新聞に掲載された各エッセイが掲載されています（すべてデーリー東北新聞社から適切な許可を得ています）。



ハル学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標(SDGs)を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。

※次回から毎月第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハル高専での英語指導などを経て、98年からハル大(現ハル学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう!

<https://1.ttd.ac/JRRMZ>

⑦ Affordable and Clean Energy

Save energy

Think about your daily routine and the kinds of energy you use for home, work, and play. Sustainable Development Goal (SDG) number seven is "Affordable and clean energy" which means having access to energy that is not too expensive and that does not harm the environment. There are several ways that the average person can save energy. Here are some practical tips:

1. Look for appliances that have an energy-saving rating, which means they meet energy efficiency guidelines set by the government. Energy-efficient appliances use less electricity and can save you money on your energy bills.
2. LED light bulbs use significantly less energy than traditional light bulbs and can last up to 25 times longer. They may cost more, but they save money over time due to their energy efficiency and long lifespan.
3. Make the most of natural light by opening curtains and blinds during the

day. This reduces the need for artificial lighting and saves energy.

4. Properly insulating your home can help keep it warm in the winter and cool in the summer, reducing the need for heating and air conditioning and saving energy.
5. Walking, biking, or taking public transportation can significantly reduce your carbon footprint. If driving is necessary, consider carpooling or using an electric or hybrid vehicle.

By implementing these tips, we can save energy, reduce our carbon footprint, and save money on our energy bills. So, during your day, try to consider the kinds of energy being used and the effects it has on the world around us and our future. Let's take up the challenge by decreasing energy and/or changing to clean sources!

- daily routine=日常生活
- affordable=安価
- practical=実用的
- appliances=家電製品
- energy-efficient=エネルギー効率の良い
- significantly=大幅に
- insulate=断熱
- carbon footprint=二酸化炭素排出量
- carpooling=相乗り

⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

エネルギーを節約しよう

家庭、仕事、遊びなど、日常生活でどんなエネルギーを使っているか考えてみましょう。持続可能な開発目標(SDG)の7番目は「安価でクリーンなエネルギー」で、これは高価過ぎず、環境に害を与えないエネルギーへのアクセスを持つことを意味します。一般市民がエネルギーを節約する方法は幾つかあります。ここでは、実用的なヒントを幾つかご紹介します。

1. 政府が定めたエネルギー効率のガイドラインを満たした、省エネ性能のある家電製品を探しましょう。エネルギー効率の良い家電製品は、使用する電力が少なく、光熱費の節約になります。
2. LED(発光ダイオード)電球は、従来の電球に比べて消費電力が大幅に少なく、最大で25倍も長持ちします。コストはかかりますが、エネルギー効率と長い寿命のおかげで、長期的にお金を節約することができます。
3. 日中はカーテンやブラインドを開けて、自然光を最大限に活用しましょう。これにより、人工照明の必要性を減らし、エネルギーを節約できます。
4. 家の断熱を適切に行うことで、冬は暖かく、夏

は涼しく、冷暖房の必要性を減らし、エネルギーを節約することができます。

5. 徒歩や自転車、公共交通機関の利用で、二酸化炭素排出量を大幅に減らすことができます。車での移動が必要な場合は、相乗りもしくは電気自動車やハイブリッド車の利用を検討しましょう。

これらのヒントを実践することで、私たちはエネルギーを節約し、二酸化炭素排出量を減らし、光熱費を節約することができます。ですから、一日の中で、どのようなエネルギーが使われているか、そしてそれが私たちを取り巻く世界や私たちの未来にどのような影響を与えるかについて考えてみてください。エネルギーを減らしたり、クリーンなエネルギーに変えたりすることに挑戦してみましょう!



太陽光パネルも、二酸化炭素排出量の削減や光熱費節約につながります。12日、階上町

和訳



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3土曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



② Zero Hunger

Avoid wasting food

What is the hungriest you've ever been? Have you ever not eaten for a day? Two days? There are millions of people, especially in Asia and Africa, who are so hungry that their bodies become sick and they do not grow up normally, they are **stunted**. In South Asia and Africa, more than 100 million children under the age of 5 have their growth stunted.

Why is there so much hunger? One reason is high food prices, another is **desertification of farmland**, and another is related to **civil and international war**. Around the world, about 2 billion people

are starving.

Is there anything we can do to help **alleviate world hunger**? One **effective method** is to **avoid wasting food**. Hachinohe City households generated about 13,000 tons of **food scraps** in 2021. We can lessen this by not taking more food than we can eat. There is a familiar **expression** that says, "Take what you want, but eat what you take". That's good advice!

- stunted=矮小（わいしょう）
- desertification=砂漠化
- civil war=内戦
- international war=国際紛争
- alleviate=和らげる
- effective method=有効手段
- avoid=避ける
- generated=排出された
- food scraps=生ごみ
- expression=言い回し

② 飢餓をゼロに

食べ物を無駄にしない

和訳 今までで一番おなかの空いたのはいつですか？ 1日食べなかったことがありますか？ 2日ですか？ 特にアジアやアフリカでは、空腹が原因で体が病気になる、正常に成長できない、発育不良の人々が何百万人もいます。南アジアやアフリカでは、5歳以下の1億人以上の子どもたちが発育不全に陥っているのです。

なぜ、これほどまでに飢餓が多いのでしょうか？ 一つは食料価格の高騰、もう一つは農地の砂漠化、そしてもう一つは内戦や国際戦争が関係しているといわれています。世界では約20億人が飢餓に苦しんでいます。

私たちに何ができるのでしょうか？ 有効手段の一つは、食べ物を無駄にしないことです。八戸市の家庭からは、2021年に約1万3千トンの生ごみが排出

されました。食べる分だけ取りなさいということを学ぶ必要があります。「好きなものを取りなさい、取ったものは食べなさい」と世間でいわれています。それは良いアドバイスですね。



イラスト:阿部千里



ハル学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3土曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハル高専での英語指導などを経て、98年からハル大 (現ハル学院大) に勤務。階上町在住。57歳。



③ Good Health and Well-Being

Are we aware of our good fortune?

A happy life is based on physical, mental, and social health. This is called "well-being". Sustainable development depends on promoting well-being at all ages and ensuring healthy lives. However, the COVID-19 pandemic is still causing suffering around the world. According to the most recent estimates, there may have been as many as 15 million deaths worldwide that could have been directly or indirectly attributed to COVID-19. The pandemic has severely disrupted important health services, increased mental problems, and decreased global life expectancy.

However, we are very lucky to be living in the Sanpachi area! It is a great place

to be healthy and happy! Surrounded by nature, clean air, fresh food, friendly people, and great social services make it easy to be happy. But are we aware of our good fortune? What are some things we can do to create well-being for ourselves? By eating healthy, exercising, getting enough sleep, and creating positive habits, we can add to our well-being. By reducing stress, alcohol, and tobacco, we can decrease the negative effects of time and the environment. Let's start today on the path to better "Good Health and Well-Being".

- based on=～に基づいて
- depends on=～による
- ensuring=確保
- estimates=推計
- attributed to=起因
- disrupted=乱す
- life expectancy=平均寿命
- be aware of=～に気付いている
- habits=習慣
- negative effects=弊害

③ 全ての人に健康と福祉を

幸せに気付いている？

和訳

幸せな人生は、身体的、精神的、社会的な健康によって成り立っています。これを「ウェルビーイング (福祉、幸福)」と呼びます。持続可能な発展は、全ての年齢層で幸福を促進し、健康な生活を確保することに懸かっています。しかし、COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) のパンデミックは、いまだ世界中で苦しみをもたらしています。最新の推計によれば、COVID-19に直接的または間接的に起因すると考えられる死亡者は、世界中で1500万人にも上る可能性があります。このパンデミックは、重要な医療サービスを大きく混乱させ、精神的な問題を増大させ、世界の平均寿命を低下させました。

しかし、三八地域に住んでいる私たちはとても幸運です！健康で幸せになるには最高の場所です！

自然に囲まれ、きれいな空気、新鮮な食べ物、フレンドリーな人々、そして素晴らしい社会サービス

によって、手軽に幸せになることができるのです。ただし私たちはその幸運に気付いているでしょうか？自分たちの幸福を実現するために、私たちにできることは何でしょうか。健康的な食事、運動、十分な睡眠を取り、前向きな習慣を身に付けることで、私たちは幸福度を高めることができます。ストレス、アルコール、たばこを減らすことで、老化を遅くし、環境による悪影響を減らすことができます。今日から、より良い「健康と福祉」への道を歩み始めましょう。



豊かな自然の中でヨガをすれば、心も健康になれます。2022年5月、ハル市種差海岸



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3土曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



④ Quality Education

Education is lifelong adventure

The SDGs guideline number four states that we must try to guarantee that all individuals have equal access to good, affordable education, including university. However, recently, due to school closures caused by the COVID-19 epidemic, almost 147 million students have missed more than half of their in-class teaching. Around the world, about 25% of primary schools lack access to basic utilities such as power, safe drinking water, and basic sanitary facilities.

Hachinohe City is very lucky to have Hachinohe Gakuin University, Hachinohe

Institute of Technology, National Institute of Technology, Hachinohe College, and a branch of the Open University of Japan. The Open University is open to all high school graduates, whatever their age, gender, or social and economic background. It offers degrees in a variety of subjects. During the COVID-19 pandemic, most of its classes were online, but they still kept going. Education can be a lifelong adventure, as long as you want to keep learning new things!

- guarantee=保証する
- affordable=安価な
- epidemic=流行
- utilities=公共サービス
- sanitary facilities=衛生設備
- graduates=卒業生
- lifelong=生涯

④ 質の高い教育をみんなに

教育は生涯の冒険

和訳 SDGsの4番目の目標では、全ての人が大学を含む良質で安価な教育を平等に受けられることを保証するよう努めなければならないとされています。しかし、最近ではCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行による学校閉鎖のため、約1億4700万人の生徒が授業の半分以上を欠席しています。世界では、約25%の小学校が、電力、安全な飲料水、基本的な衛生設備などの公共サービスを利用できない状態です。

八戸市は、八戸学院大、八戸工業大、八戸高専、そして放送大学の支部があり、とても恵まれています。放送大学の場合は、年齢、性別、社会的・経済的背景に関係なく、高校を卒業した全ての人に門戸を開いています。さまざまな分野の学位が取得でき

ます。COVID-19のパンデミックの間、ほとんどの授業がオンラインでしたが、それでも続けました。教育は、新しいことを学び続けたいと思う限り、生涯の冒険となり得るのです。



八戸学院大の学生7人がボランティア活動のため、タイ・チェンマイ市の児童養護施設などを訪問し、子どもたちに折り紙を教えました＝2017年2月



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3土曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大(現八戸学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう!

<https://l.ttd.ac/OJXMW>

⑤ Gender Equality

Same rights and opportunities for men and women

Did you have both boys and girls in your classes in school? If you went to a public school, I'm sure you did! Gender equality is one of the SDGs and it means treating men and women the same and giving them equal opportunities in all areas of life, including education, work, and politics. This includes ending discrimination against women and girls and making sure they have the same chances to succeed as men and boys. Around the world, women make up only 26 percent of national governments. At the current rate, it will take another 40 years for that number to be equal!

What about here in Japan? Unfortunately, Japan has one of the worst records for women in politics and business around the world, and Hachinohe is no different. Some

women are making wonderful progress, but compared to other countries, it is still not enough. We can help by choosing leaders who support a positive cycle of education and by supporting girls and women who dream of becoming scientists, business leaders, and even Prime Ministers! It all begins with two main fundamentals: education and opportunity. All it takes is to educate girls to have confidence and to dream big and give them the same opportunities as boys to succeed.

- treating=〜に扱い
- opportunities=機会
- politics=政治
- discrimination=差別
- succeed=成功する
- current=現在
- unfortunately=残念ながら
- progress=成果
- compared=比べる
- a positive cycle=良い循環
- fundamentals=基礎
- all it takes=必要なのは〜だけ
- confidence=自信

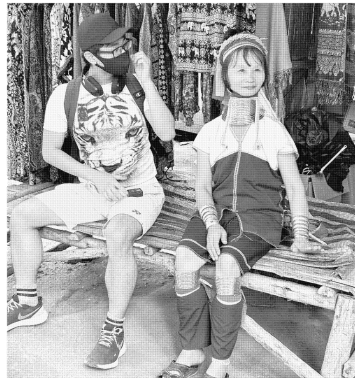
⑤ ジェンダー平等を実現しよう

男女で同じ機会と権利を

和 訳 あなたの学校のクラスには、男子も女子もいましたか？ 公立の学校に通っていた人は、きっとそうだったでしょう。ジェンダー平等はSDGsの一つで、男女を同じように扱い、教育、仕事、政治など生活のあらゆる分野で平等な機会を与えることを意味します。これには、女性や少女に対する差別をなくし、男性や少年と同じように成功するチャンスを得られるようにすることも含まれます。世界では、各国政府のうち女性が占める割合はわずか26%です。現在のままでは、この数字が同じになるまでにあと40年かかるといわれています。

日本ではどうでしょうか？ 残念ながら、日本は政治やビジネスにおける女性の地位が世界で最も低い国の一つで、八戸も違いはありません。一部の女性は素晴らしい成果を上げていますが、諸外国と比べ

るとまだまだ不十分です。私たちは、教育の良い循環を支えるリーダーを選び、科学者やビジネスリーダー、さらには総理大臣になることを夢見る少女や女性を支援することで、手助けすることができます。全ては、教育と機会という二つの主要な基礎から始まります。必要なのは、女子に自信を持たせ、大きな夢を持てるように教育し、男子と同じように成功する機会を与えることだけです。



タイのカレン族は女性だけ首輪を着ける習慣があり、ジェンダー差別の例に挙げられます=3月



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう！

<https://1.ttd.ac/MZPKZ>

⑥ Clean Water and Sanitation

Clean and safe water is precious

Get a cup and take a drink of water from your kitchen tap.No problem,right? It sure is no problem for Japan,but for many countries,especially countries that do not have mountain water or underground aquifers,drinking water from the tap will get you sick.Clean water and sanitation is part of Goal 6 of the SDGs to ensure the availability and sustainable management of water and sanitation for all.That means having access to clean and safe water for drinking, cooking,and cleaning and proper waste disposal facilities.This is important for maintaining good health and preventing the spread of disease.It is also important for the environment,as dirty water can pollute natural resources

and harm plants and animals.

When I lived in the part of Hachinohe called Myo,my house water was provided by the spring called “Kanisawa Suido Koen”,or as the locals called it,“Ganja Spring Water”.The water is cold and delicious all the time,but it is a small water purification plant and can only provide water for a limited number of people. Now that I live in Hashikami Town,I get water from Hachinohe City,which is also good,but I still sometimes get nostalgic for the pure spring water of Ganja Spring Water.Let’s make a toast to clean water. “Kanpai!”

- tap=蛇口
- underground aquifers=地下帯水層
- ensure=確保する
- waste disposal=廃棄物処理
- preventing the spread of disease
=病気のまん延を防ぐ
- a limited number of people
=限られた人
- nostalgic=懐かしい

⑥ 安全な水とトイレを世界中に

清潔で安全な水は貴重

和訳 コップを用意して、台所の蛇口から水を飲んでみてください。問題ないでしょうか？ 確かに日本では問題ありませんが、多くの国、特に山水や地下帯水層がない国では、水道の水を飲むと病気になります。清潔な水と衛生は、SDGsの目標6の一部で、全ての人のために水と衛生を利用できること、また持続可能な管理を確保することになっています。つまり、飲料や調理、清掃のための清潔で安全な水と、適切な廃棄物処理施設を利用できるようにすることを指します。これは健康を維持し、病気のまん延を防ぐために重要です。また、汚れた水は天然資源を汚染し、植物や動物に害を及ぼす可能性があるため、環境にとっても重要なことです。

私が八戸の妙という地域に住んでいた時、家の水は「蟹沢水道公園」、地元の人「がんじゃの水」

と呼んでいる湧き水から賄われていました。この水はいつでも冷たくておいしいのですが、小さな浄水場なので、限られた人にしか水を供給できません。今は階上町に住んでいるので、八戸市から水をもらっていますが、それもおいしいのですが、やはり時々「がんじゃの水」の澄んだ湧き水が懐かしくなることがあります。きれいな水で乾杯しましょう。“カンパイ！”



日本はきれいな山水が豊富で、非常に恵まれています。4月26日、階上岳



ハル学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標(SDGs)を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。

※次回から毎月第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハル高専での英語指導などを経て、98年からハル大(現ハル学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう!

<https://1.ttd.ac/JRRMZ>

⑦ Affordable and Clean Energy

Save energy

Think about your daily routine and the kinds of energy you use for home, work, and play. Sustainable Development Goal (SDG) number seven is "Affordable and clean energy" which means having access to energy that is not too expensive and that does not harm the environment. There are several ways that the average person can save energy. Here are some practical tips:

1. Look for appliances that have an energy-saving rating, which means they meet energy efficiency guidelines set by the government. Energy-efficient appliances use less electricity and can save you money on your energy bills.
2. LED light bulbs use significantly less energy than traditional light bulbs and can last up to 25 times longer. They may cost more, but they save money over time due to their energy efficiency and long lifespan.
3. Make the most of natural light by opening curtains and blinds during the

day. This reduces the need for artificial lighting and saves energy.

4. Properly insulating your home can help keep it warm in the winter and cool in the summer, reducing the need for heating and air conditioning and saving energy.
5. Walking, biking, or taking public transportation can significantly reduce your carbon footprint. If driving is necessary, consider carpooling or using an electric or hybrid vehicle.

By implementing these tips, we can save energy, reduce our carbon footprint, and save money on our energy bills. So, during your day, try to consider the kinds of energy being used and the effects it has on the world around us and our future. Let's take up the challenge by decreasing energy and/or changing to clean sources!

- daily routine=日常生活
- affordable=安価
- practical=実用的
- appliances=家電製品
- energy-efficient=エネルギー効率の良い
- significantly=大幅に
- insulate=断熱
- carbon footprint=二酸化炭素排出量
- carpooling=相乗り

⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

エネルギーを節約しよう

家庭、仕事、遊びなど、日常生活でどんなエネルギーを使っているか考えてみましょう。持続可能な開発目標(SDG)の7番目は「安価でクリーンなエネルギー」で、これは高価過ぎず、環境に害を与えないエネルギーへのアクセスを持つことを意味します。一般市民がエネルギーを節約する方法は幾つかあります。ここでは、実用的なヒントを幾つかご紹介します。

1. 政府が定めたエネルギー効率のガイドラインを満たした、省エネ性能のある家電製品を探しましょう。エネルギー効率の良い家電製品は、使用する電力が少なく、光熱費の節約になります。
2. LED(発光ダイオード)電球は、従来の電球に比べて消費電力が大幅に少なく、最大で25倍も長持ちします。コストはかかりますが、エネルギー効率と長い寿命のおかげで、長期的にお金を節約することができます。
3. 日中はカーテンやブラインドを開けて、自然光を最大限に活用しましょう。これにより、人工照明の必要性を減らし、エネルギーを節約できます。
4. 家の断熱を適切に行うことで、冬は暖かく、夏

は涼しく、冷暖房の必要性を減らし、エネルギーを節約することができます。

5. 徒歩や自転車、公共交通機関の利用で、二酸化炭素排出量を大幅に減らすことができます。車での移動が必要な場合は、相乗りもしくは電気自動車やハイブリッド車の利用を検討しましょう。

これらのヒントを実践することで、私たちはエネルギーを節約し、二酸化炭素排出量を減らし、光熱費を節約することができます。ですから、一日の中で、どのようなエネルギーが使われているか、そしてそれが私たちを取り巻く世界や私たちの未来にどのような影響を与えるかについて考えてみてください。エネルギーを減らしたり、クリーンなエネルギーに変えたりすることに挑戦してみましょう!



太陽光パネルも、二酸化炭素排出量の削減や光熱費節約につながります。12日、階上町



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標(SDGs)を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。*第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大(現八戸学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



<https://l.ttd.ac/OREJD>

⑧ Decent Work and Economic Growth

What is New Economics?

If all countries had good economic growth, the world would be better, right?

Let's think more deeply about this. In traditional economics, people focus on making lots of money and growing the economy as much as possible. We now know that this is unsustainable and creates inequality around the world.

New Economics considers how our actions affect the environment, how to make sure everyone has what they need, and how to create a fair and happy society. And it's finding new and smarter ways to make sure that we take care of our planet at the same time! New Economics also encourages us to NOT measure success by how much money we make, but how happy people are, how healthy they are, and how well they can live their lives. This helps us understand

that there's more to life than just money and that our well-being is important too. One important idea is sustainability through renewable energy sources like wind and solar power, recycling instead of throwing away, and being mindful of the planet. Another idea is fairness; reducing poverty and inequality so that everyone has access to things like education, health care, and a good standard of living.

So, New Economics is about finding better ways to use our resources, protect the environment, and make sure everyone has what they need to create a fair and happy society. It's about thinking of creative solutions that are good for everyone and for future generations. It sounds like the perfect SDG-friendly economic model to me!

- inequality=不平等
- encourage=勧める、奨励する
- renewable energy=再生可能エネルギー
- fairness=公平性
- creative solution=創造的な解決策

⑧ 働きがいも経済成長も

新しい経済学とは

和訳 全ての国が好ましい経済成長を遂げたら、世界はもっと良くなりますよね? このことについて、もっと深く考えてみましょう。伝統的な経済学では、人々はたくさんのお金を稼ぎ、できるだけ経済を成長させることに焦点を当てます。私たちは今、これが持続不可能であり、世界中に不平等を生み出していることを知っています。

ニューエコノミクス(新しい経済学)は、私たちの行動が環境にどのような影響を与えるか、誰もが必要なものを手に入れられるようにするにはどうしたらいいか、公平で幸せな社会をつくるにはどうしたらいいかを考えています。そして、同時に地球を大切にするための新しく賢い方法を見つけ出しています! ニューエコノミクスはまた、成功の尺度を「どれだけお金を稼いだか」ではなく、「どれだけ人々が幸せか」「どれだけ健康か」「どれだけ充実した生活を送れるか」とすることを勧めています。これは、人生にはお金以上のものがあり、私たちの幸福も重要であることを理解するのに役立ちます。風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー、

捨てるのではなくリサイクル、地球への配慮などを通じた持続可能性が重要な考え方の一つです。もう一つの考え方は公平性で、貧困や不平等を減らし、誰もが教育や医療、生活水準を向上させることができるようにすることです。

つまり、ニューエコノミクスとは、資源のより良い利用方法を見つけ、環境を保護し、公正で幸せな社会をつくるために必要なものを誰もが手に入れられるようにすることです。現代の、そして未来の全ての人々にとって、好ましい創造的な解決策を考えることです。それはSDGsにふさわしい経済モデルだと私は思います!



イラスト:阿部千里



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう！

<https://1.ttd.ac/EXMXZ>

⑨ Industry, Innovation and Infrastructure

Environmentally friendly industry

Have you seen or heard of any new projects happening around Hachinohe? If you have, are there any signs of the sustainable goals? For example, near Hachinohe Port, crossing Mabechi River, there is a bridge that is being rebuilt. Will it have solar lighting? Will it have electricity generated from the pillars in the river current? Are the building materials transported from far away or close to here? These are just a few questions that need to be asked in order to secure an earth-friendly future. SDG number nine deals with Industry, Innovation, and Infrastructure.

The Industry goal is to make sure industries are clean, safe, and don't harm the environment. In other words, to produce

things without using too much energy, water, or creating a lot of waste. Innovation means realizing new and creative ideas to solve problems. New inventions and technologies can make our lives better. Infrastructure refers to the basic systems and structures that support our daily lives. Roads, bridges, hospitals, and schools are just some of these. The goal is to build and improve these things so that everyone can have access to them.

New ideas and inventions can improve our lives in a sustainable and environmentally friendly world. Everyone should have access to essential systems and structures. We need to ask questions to our local governments and businesses so that our environment is protected and safe for all.

- pillar＝橋脚
- river current＝川の流れ
- to secure＝確保する
- deal with＝～を扱う
- realize＝実現する

⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう

環境に優しい産業を

和訳 八戸周辺で新しいプロジェクトが行われているのを見たり聞いたりしましたか？ もしあれば、持続可能な目標を示すものはありますか？ 例えば、八戸港の近く、馬淵川を渡る橋が架け替えられています。その橋には、ソーラー照明が設置されるのでしょうか？ 川の流れの中の橋脚から発電するのでしょうか？ 建材は遠くから運ばれてくるのか、近くから運ばれるのか？

これらは、地球に優しい未来を確保するために必要な質問のほんの一部です。SDGsの9番目は「産業、イノベーション、インフラ」です。

産業の目標は、産業がクリーンで安全で、環境に害を与えないようにすることです。つまり、エネルギーや水を使い過ぎず、多くの廃棄物を出さずにモノを生産することです。イノベーションとは、問題を解決するために新しく創造的なアイデアを実現することです。新しい発明や技術は、私たちの生活をより良いものにします。インフラとは、私たちの日

常生活を支える基本的なシステムや構造物のことを指します。道路、橋、病院、学校などはその一例です。誰もが利用できるように、これらのものを構築し、改善することが目標です。

新しいアイデアや発明は、持続可能で環境に優しい世界で私たちの生活を向上させることができます。必要不可欠なシステムや構造物に誰もがアクセスできるようにすべきです。私たちの環境が守られ、全ての人にとって安全であるように、私たちは地方自治体や企業に疑問を投げかける必要があります。



馬淵川の新大橋は架け替え工事中です＝6日



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大(現八戸学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/PQLGW>

⑩ Reduced Inequality Within and Among Countries

Fair opportunities for all

Do you think 20 percent is a lot or a little? Well, it depends on the context. If you get a score of 20 percent on a test, it's considered very low. But if you own a 20 percent share of a company like Toyota, that's a large amount! Did you know that around 20 percent of people in the world face discrimination because of inequality. This number rises to 30 percent for disabled individuals. The data from 2022 shows that there's still much work to do. We can't improve the world if people aren't given a fair chance at a better life.

In Hachinohe, I wonder how many disabled people, seniors, minorities, and others are being discriminated against? Look around your class, office, or neighborhood. Are there equal opportunities for everyone? Do you see different kinds of people doing the same things you are doing? To reduce inequality, we need to bring about change. Change begins with the way we think and feel, because this is the basis for our actions. And actions are the basis for change, within countries and among countries.

- context=状況
- share=株
- discrimination=差別
- disabled individuals=障害者
- basis=基礎

⑩ 人や国の不平等をなくそう

全ての人に公平な機会を

和訳 20%は多いと思いますか、少ないと思いますか? まあ、それは状況によりますね。テストで20%の点数を取ったら、とても低い点数だと思われそうです。しかし、トヨタのような会社の株を20%持っていれば、それは大きな金額です! 世界では、約20%の人が不平等を理由に差別を受けていることをご存じでしょうか。この数字は、障害者の場合、30%に上昇します。2022年のデータを見ると、まだまだやるべきことはたくさんあることが分かります。人々がより良い人生を送るための公平なチャンスを与えられないのであれば、世界を良くすることはできません。

八戸では、どれだけの障害者、高齢者、マイノリティーなどが差別されているのでしょうか。自分のクラスや職場、近所を見渡してみてください。みんなに平等な機会があるのでしょうか? 自分と同じことを、いろいろな人がやっているのを見かけますか?

不平等を減らすには、変化をもたらす必要があります。変化は、私たちの考え方や感じ方から始まります。なぜなら、それが私たちの行動の基礎となるからです。そして行動こそが、国の中でも、国同士の間でも、変化の基礎となるのです。



八戸三社大祭に参加するオランダ人のジョンさん(右)とオーストラリア人のボニさん。年齢や性別、国籍、障害の有無など関係なく誰でも楽しむことができます=2017年8月



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標(SDGs)を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大(現八戸学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/WDNRYR>

① Sustainable Cities and Communities

Environmentally friendly urban planning

In the past ten years or so, I have heard many people say that downtown Hachinohe is dying. Fewer people go there to shop, relax, and live than in recent history. However, I choose to believe that this is a great opportunity! Why? Because with foresight and proper planning, the downtown area can become a fun and prosperous eco-space! What does this mean?

The perfect sustainable urban environment is a place where people can live happily while also taking care of the Earth. The air is fresh and healthy to breathe, and the water is safe to drink.

There are parks, gardens, and trees everywhere. People can easily get around the city without needing a car. There are buses, trains, and maybe even bicycles for people to use. The buildings are designed to use less energy, which helps reduce pollution and saves money. People are encouraged to recycle their trash and use fewer disposable items. There are recycling bins everywhere, and maybe even composting programs to turn food waste into useful soil. So, what do you think? Does this sound like a downtown in which you'd like to visit often or even live?

- recent=最近
- foresight=先見の明
- prosperous=豊かな
- urban=都市
- encouraged=奨励される
- disposable=使い捨て

① 住み続けられるまちづくりを

環境に優しい都市計画

和訳 ここ10年ほど、八戸の中心街は衰退しているという声をよく耳にします。買い物をしたり、くつろいだり、暮らしたりするために八戸を訪れる人は、以前に比べて少なくなっています。しかし、私はこれは大きなチャンスだと信じていることにしています! なぜかって? 先見の明と適切な計画があれば、中心街は楽しくて豊かなエコ・スペースになるからです! これは何を意味するのでしょうか?

理想的な持続可能な都市環境とは、人々が地球を大切にしながら楽しく暮らせる場所です。空気は新鮮で健康に呼吸でき、水は安全に飲めます。あちこちに公園や庭園、木々があります。人々は車を必要とせず、簡単に街を移動することができます。バスや電車、そして自転車もあります。建物は、エネルギーをあまり使わないように設計されていて、公害を減らし、お金を節約することに役立っています。

人々はごみをリサイクルし、使い捨てのものを少なくするよう奨励されています。至る所にリサイクルボックスがあり、生ごみを有用な土に変えるコンポスト・プログラムもあるかもしれません。さて、あなたは思うのでしょうか? 頻繁に訪れたい、あるいは住んでみたい中心街だと思いませんか?



空洞化が心配される八戸市中心街ですが、エコなまちづくりを進めるチャンスでもあります。15日



ハルノ先生は、ハルノ学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハルノ高専での英語指導などを経て、98年からハルノ大(現ハルノ学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/KQZEO>

⑫ Reduced Inequality Responsible Consumption and Production

Eco-friendly natural places

When talking about responsible consumption and production, a question that has been asked since the awareness of the climate crisis is, "How much stuff do we need to live and be happy?"

Unfortunately, the answer to this question has been shown to be too obvious (we don't need much) and not practical (we still keep buying more stuff). Therefore, the more practical question now being asked is, "How planet-friendly are the things we do and buy?" In this regard, eco-tourism is leading the way by offering travelers sustainable ways to take their journeys and explore the world around them. There are now travel destinations that are helping to limit damage to the

planet.

In the Sanpachi area, we have natural places to relax and play. Two of these are along the Pacific Ocean coast, specifically Tanesashi Coast and Shirahama Beach, where people can go walking, swimming, camping and even glamping while enjoying sandy beaches and grassy fields along the beautiful coastline. Another is Mount Hashikami, a small mountain that is very popular for hiking, camping, photography and star-watching. One of the best things about these areas is that they are only a short distance away from each other! If you want a challenge, you can even ride a bicycle between them! Now that is a great way to keep your travels eco-friendly!

- responsible consumption=責任ある消費
- unfortunately=残念なことに
- obvious=明白
- in this regard=この点で
- glamping=glamorous+campingの造語
- star-watching=星空観察

⑫ つくる責任 つかう責任

エコで楽しめる自然の場所

和訳 責任ある消費と生産について語る時、気候危機が意識されるようになってから言われるようになったのが、「私たちが生きて幸せになるためには、どれだけの物が必要なのか?」という問いです。残念なことに、この問いに対する答えはあまりに明白で(私たちは多くを必要としていない)、現実的でない(私たちはまだ多くの物を買っている)ことが明らかになっています。そこで現在、より現実的な問題として「私たちが暮らすことや買う物は、どれだけ地球に優しいか?」が問われています。この点でエコツーリズムは、旅行者に持続可能な方法で旅をし、周囲の世界を探索する方法を提供することで、道を切り開いています。現在では、地球への負荷を抑えるのに役立って

いる旅行先があります。

三八地域には、リラックスしたり遊んだりできる自然の場所があります。そのうちの二つ、具体的には種差海岸と白浜海水浴場は太平洋沿岸にあり、美しい海岸線沿いの砂浜や草原を楽しみながらウオーキングや海水浴、キャンプ、さらにはグランピングをすることができます。もう一つは、ハイキングやキャンプ、写真撮影、星空観察に人気のある小さな山、階上岳です。これらのエリアの良いところは、互いにわずかな距離にあることです! もしチャレンジしたいのなら、自転車で移動することもできます! エコな旅を続けるにはもってこいです!



種差の美しい天然芝生地でグランピングを楽しむことができます=7月20日



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のハリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGs について理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/DPVQJ>

⑬ Climate Action

Needs ongoing effort and cooperation

Even though countries agreed on the Paris Agreement in 2015, the Earth is still getting warmer. This is because it takes time to make big changes, and some things are still causing the planet to heat up.

Slow Changes: The gases that make the Earth warmer, like carbon dioxide, stay in the air for a long time. It takes a while for these changes to have a big impact.

Growing Population: More people are living on Earth, which means we need more energy and resources, leading to more environmental pollution and warming.

Economic Needs: Many countries still

rely on fossil fuels for their economies.

Global Cooperation: While many countries are working together, not everyone is following the agreement as strongly as they should.

The Paris Agreement is an important step, but it's a big challenge to make sure all countries reduce their emissions and work together to slow down the warming of the Earth. It's something that needs ongoing effort and cooperation from everyone.

- Paris Agreement=パリ協定 (気候変動問題に関する国際的な協定)
- leading to=～につながる
- following=従っている
- ongoing effort=継続的な努力

⑬ 気候変動に具体的な対策を

継続的な努力と協力が必要

和訳 2015年に各国がパリ協定に合意したにもかかわらず、地球は依然として気温が上昇しています。これは、大きな変化を起こすには時間がかかるためであり、幾つかのことが依然として地球を暑くしているのです。

ゆっくりとした変化：二酸化炭素のような地球を温暖化させるガスは、空気中に長くとどまります。これらの変化が大きな影響を与えるには時間がかかります。

人口の増加：地球上に住む人が増え、より多くのエネルギーや資源が必要となり、環境汚染や温暖化の拡大につながっています。

経済的ニーズ：多くの国が、いまだに化石燃料に依存しています。

世界的な協力：多くの国が協力しているとはいえ、全ての国が協定に強く従っているわけではありません。

パリ協定は重要な一歩ですが、全ての国が排出量を削減し、地球の温暖化を遅らせるために協力することは大きな課題です。みんなの継続的な努力と協力が必要です。



今年の夏は、青森県南地方でも異様な暑さが続いています。11日、階上町



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高専での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/VPDNY>

⑭ Life Below Water

Let's clean up the ocean

The ocean's health is still getting worse. The big water ecosystem, the ocean, is in danger because the water is getting more acidic, there's too much plant nutrients such as algae blooms, fish numbers are going down, and there's a lot of plastic trash. Even though there's been a bit of improvement in making special ocean zones and stopping illegal fishing, we really need to work harder and faster. Everyone in the world needs to work together quickly to keep making progress on the SDG14 goal, which is about taking care of the ocean.

Despite this seemingly bleak picture,

there has been some progress and people are taking action. One of these groups is called the "Hachinohe Beautiful Ocean Lions Club", part of the International Lions Club. This volunteer group meets once a month to clean up the coasts around the Hachinohe area. Their wonderful effort benefits marine health, but also benefits us because we can visit these cleaned-up areas and enjoy the natural environment free from pollution and potentially dangerous garbage.

- ecosystem＝生態系
- acidic＝酸性化
- algae blooms＝藻の繁殖
- bleak picture＝暗い状況
- progress＝進展
- potentially＝潜在的に

⑭ 海の豊かさを守ろう

海をきれいにしよう

和訳 海の健康状態は悪化の一途をたどっています。水が酸性化して、藻の繁殖など植物の栄養分が増え過ぎ、魚の数は減って、大量のプラスチックのごみが出るなど、海という大きな水の生態系が危機にひんしています。海洋特区の設置や違法漁業の防止など、少しずつ改善されてきているとはいえ、私たちはもっと早く、もっと努力する必要があります。SDGs 14番目の「海を大切にす」という目標を達成し続けるために、世界中のみんなが迅速に協力する必要があります。

このような一見暗い状況にもかかわらず、幾つかの進展があり、人々は行動を起こしています。その一つが、国際ライオンズクラブの一部である「八戸きれい海ライオンズクラブ」と呼ばれるグループです。このボランティアグループは月に1回集まり、八戸周辺の海岸を清掃しています。彼らの素晴らしい

八戸きれい海ライオンズクラブの海岸清掃活動の様子。私、バリーもメンバーです
＝6月4日、八戸市鮫町



い努力は、海の健康に役立つだけでなく、清掃された地域を訪れ、汚染や潜在的に危険なごみのない自然環境を楽しむことができるため、私たちにもメリットがあるのです。



ハルノ先生は、ハルノ学院大地域経営学部地域経営学科教授のハリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標 (SDGs) を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGs について理解を深めましょう。*第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハルノ高専での英語指導などを経て、98年からハルノ大(現ハルノ学院大)に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/MZKVN>

⑮ Life on Land

Plants and Animals to live safely

SDG number 15, which is all about "Life on Land" is about taking care of the land we live on and the plants and animals that call it home. This goal is important because our planet's forests, mountains, deserts, and other landscapes are vital for providing us with clean air, water, and resources. It limits things like deforestation. This also wants to make sure that the animals and plants living on land are safe and can thrive. It can make sure that certain species don't disappear forever. It also aims to prevent invasive species—like plants or animals that don't belong in a certain area—from

taking over and harming native species.

This goal has already been partly achieved in our area by the Japanese government adding Tanesashi Coast and Mount Hashikami to the Sanriku Reconstruction National Park in May of 2013. This inclusion allows natural areas to stay pure while restricting new construction projects. Regulating these precious areas allows the forest and all their living inhabitants to remain healthy in these parks. This will bring in sustainable eco-tourism money that will help to support itself, creating a positive feedback loop of healthy nature and human leisure!

- landscapes=景観
- deforestation=森林伐採
- invasive species=外来種
- native species=在来種
- reconstruction=復興

⑮ 陸の豊かさを守ろう

動植物が安全に生きられるように

和訳 SDGsの15番目は「陸上の生活」をテーマとしており、私たちが生活する土地と、そこをすみかとする動植物を大切にすることを掲げています。この目標は、地球の森林や山々、砂漠、その他の景観が、私たちにきれいな空気や水、資源を提供するために不可欠なので重要です。森林伐採などを制限する。このことは、土地にすみ動物や植物が安全で繁栄できるようにすることも目的としています。特定の種が将来にわたり絶滅しないようにすることができます。また、外来種(特定の地域に属さない動植物など)がその土地を占拠し、在来種に害を及ぼすのを防ぐことも目的としています。

この目標は、日本政府が2013年5月、種差海岸や階上岳を三陸復興国立公園に追加したことにより、私たちの地域は既に部分的に達成されています。これにより新たな建設計画が制限される一方で、自然

がそのままの状態を保たれるようになりました。貴重な地域を規制することで、これらの公園では森とそこにすむ全ての生物が健全であり続けることができます。これは持続可能なエコツーリズムの資金をもたらす、健全な自然と人間の余暇という好ましいフィードバック・ループを生み出します！



自然を守る目的の三陸復興国立公園に階上岳も追加されました=4月23日、階上岳山頂



ハル学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハル高専での英語指導などを経て、98年からハル大（現ハル学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/LLXJM>

⑯ Peace, Justice and Strong Institutions

With compassion for all people

SDG number 16 is about making peaceful and fair societies where everyone can get justice. Violence and fighting make it hard to achieve this. For example, there was a big increase in civilian deaths in 2022 because of the war in Ukraine. Lots of violence causes crimes, hurts people, and makes places unsafe. **Discrimination** can make people angry and cause more violence. People can help by voting for responsible leaders and being nice to all kinds of people in their communities.

The Hachinohe area and all of Aomori

Prefecture is a great place to live, work, and play. We don't really see or hear about problems related to SDG number 16. However, we must never **turn a blind eye** towards injustice when we see it. **Domestic abuse, child abuse, racism, and government corruption** can happen at any time, anywhere. We have to be **vigilant, fair, compassionate, and speak up** so we can make sure our home is always at peace and has justice for all.

- discrimination=差別
- turn a blind eye=見て見ぬふり
- abuse=虐待
- racism=人種差別
- corruption=腐敗
- vigilant=用心深い
- compassionate=思いやりのある

⑯ 平和と公正をすべての人に

あらゆる人に思いやりを

和訳 SDGsの16番目は、誰もが正義を手に行することができる平和で公正な社会を実現することです。暴力や戦闘がこれを達成することを難しくしています。例えば、2022年にはウクライナでの戦争により、民間人の死者が大幅に増加しました。多くの暴力は犯罪を引き起こし、人々を傷つけ、場所を危険にさらします。差別は人々を怒らせ、さらなる暴力の原因になります。人々にできることは、責任あるリーダーに投票し、地域のあらゆる人々に親切にすることです。

ハル地域と青森県全域は、住み、働き、遊ぶのに素晴らしい場所です。SDGsの16番目に関する問題を見聞きすることはあまりありません。しかし、

私たちは不正義を目の当たりにしたとき、決して見て見ぬふりをしてはいけません。家庭内虐待、児童虐待、人種差別、政府の腐敗は、いつでもどこでも起こり得ます。私たちは家庭が常に平和で、全てのの人に正義があるようにするために、用心深く、公正に、思いやりを持って、声を上げる必要があります。



イラスト:阿部千里



ハルカ先生は、ハルカ学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3月曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハルカ高専での英語指導などを経て、98年からハルカ大（現ハルカ学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://1.ttd.ac/ROQWZ>

⑰ Partnerships for Sustainable Development

Everyone's cooperation changes the world

SDG number 17 is about working together worldwide to achieve all the other goals. It means governments, businesses, groups in society, and people from everywhere helping each other. They team up in areas like money, technology, learning, trade, and making policies. Rich countries should keep their promises to give money to poor countries. It also helps make sure trade is fair and good for everyone and shares green technology to help the planet. No one can fix these problems alone, so we need to work together for a better future for all.

Even in our area, there are several things we can do to help with Goal 17. First, you can find a charity that supports this goal and donate to them. Some volunteer groups and NGOs are working to achieve the Global Goals. When you shop, consider buying products from developing countries to support their exports. Look for the Fair Trade label on products. Stay informed about these issues by following local news and connecting with people who care. With a little help from all of us, we can make a big difference in the world!

- policies=政策
- donate=寄付する
- exports=輸出
- connecting with people=人とのつながり

⑰ パートナシップで目標を達成しよう

みんなの協力が世界を変える

和訳 SDGsの17番目は、他の全ての目標を達成するために世界中で協力することを旨とするものです。政府、企業、社会のグループ、そしてあらゆる国の人々が互いに助け合うことを意味します。資金、技術、学習、貿易、政策決定などの分野で協力するのです。豊かな国々は、貧しい国々に資金を提供するという約束を守るべきです。貿易が公正で誰にとっても有益であることを確かめるのに役立ち、地球を守るためのグリーンテクノロジーを共有することにもなります。このような問題を一人で解決することは誰にもできないので、全ての人にとってより良い未来のために、私たちは協力する必要があります。

私たちの地域でも、17番目の目標を達成するためにできることがいくつかあります。まず、この目標を支援しているチャリティー団体を見つけて寄付をす

ることができます。ボランティアグループや非政府組織（NGO）の中には、世界的な目標達成のために活動しているところもあります。買い物をするときは、発展途上国の輸出を支援するために、その国の製品を買うことを検討しましょう。商品にはフェアトレードのラベルが貼られています。地元のニュースを見たり、関心のある人たちとつながったりして、これらの問題について常に情報を得ましょう。私たち全員のほんの少しの協力で、世界に大きな変化をもたらすことができるのです！

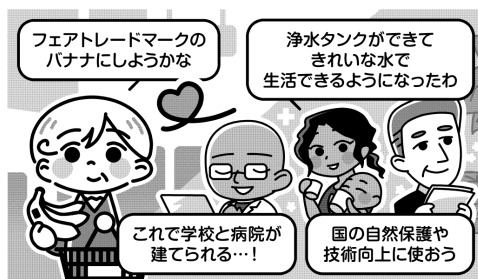


イラスト:阿部千里



ハル学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。
※この項終わり



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。ハル高専での英語指導などを経て、98年からハル大（現ハル学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



クイズで理解を深めよう

<https://l.ttd.ac/OOMON>

Epilogue

For our survival

I believe that most ecological problems are due to human over-consumption. We consume mass quantities of energy - oil, gas and coal for transportation, heating, and cooling as well as the manufacturing of plastics. We destroy the land by mining for coal and minerals and we clear-cut forests for our building materials. We consume mass amounts of living material for food, clothing, and housing. The problem is exacerbated by the scientific fact that when anything is consumed, waste is produced. Air, water, and land pollution needs to be decreased immediately if we want to survive.

The long-term solutions to these problems are proactive eco-education, government and community eco-based programs as well as eco-protection laws

that prioritize low-impact, eco-friendly and fair trade goods. Ultimately, this means advocating for rights - the rights of all living and non-living entities to exist, the right to live in a clean and healthy environment, and the right to secure a safe planet on which to live.

What will our generation be remembered for? Saving millions of species from man-made extinction? Or will there be no human future to remember us at all? The decision is ours; we have no time to procrastinate any longer. The SDGs are not a fad, not a cool marketing phrase. They are a lifeline. They are our survival.

- over-consumption=過剰消費
- clear-cut=皆伐する
- exacerbate=悪化させる
- proactive=積極的
- prioritize=優先する
- advocate=擁護する
- extinction=絶滅
- procrastinate=先延ばしにする

エピローグ

私たちが生き残るために

和訳

私は、生態系の問題のほとんどは人間の過剰消費に起因すると考えています。私たちは輸送や暖房、冷房、プラスチック製造のために、石油、ガス、石炭といったエネルギーを大量に消費。石炭や鉱物の採掘で土地を破壊し、建築資材のために森林を皆伐しています。衣食住のために大量の生物資源を消費しています。何でも消費すれば廃棄物が出るという科学的事実が、この問題をさらに悪化させているのです。私たちが生き残りたいのであれば、大気や水質、土地の汚染を直ちに減らす必要があります。

これらの問題に対する長期的な解決策は、積極的な環境教育、政府や地域社会の環境に基づいた計画、そして負荷が少なく環境に優しく、フェア・トレードの商品を優先する環境保護法です。結局のところ、これは全ての生物と非生物が存在する権利、清潔で健康的な環境に住む権利、そして安全な地球を確保する権利を擁護することにつながります。

私たちの世代はどんなことで記憶されるでしょ

う。何百万もの種を人為的な絶滅から救うことでしょうか。それとも、私たちが覚えている人類の未来は全くないのでしょうか。決断は私たちに委ねられており、もはや先延ばしする時間はありません。SDGsは流行でも、カッコいい宣伝文句でもありません。命綱です。私たちの生き残りを懸けたものなのです。



道を示してくれる灯台は、SDGsの道標でもあり、あります。5月27日、階上灯台



八戸学院大地域経営学部地域経営学科教授のバリー・グロスマンさんと一緒に、持続可能な開発目標（SDGs）を英語で学ぶ企画です。QRコードを読み取ると、クイズ形式で学習もできます。楽しみながら、SDGsについて理解を深めましょう。※第1、第3土曜日に掲載



◆プロフィール 米国ニューヨーク市出身。1991年来日。八戸高专での英語指導などを経て、98年から八戸大（現八戸学院大）に勤務。階上町在住。57歳。



prologue

What is “sustainability”?

What do you think about when you hear the word sustainable? In 2015, the United Nations decided on 17 goals to achieve so we can live in a sustainable world by 2030. These are called the “Sustainable Development Goals”, or SDGs for short.

Basically, we should do things that are good for people, good for the planet, good for peace, good for prosperity, and good for partnerships. For example, if you plant trees around your school, it is good for people because trees give shade on hot days and they give off oxygen. Trees are good for the planet because they absorb carbon dioxide and they block strong winds and absorb rainwater. They are good for

peace because we can sit under a beautiful tree when we feel angry or sad, making us feel better. Tree planting is good for prosperity because, with conservation, trees can make paper, houses, furniture, and lots of other things.

Planting trees with your friends is good for partnership because you learn to work together to help save our planet Earth!

Therefore, sustainability means great living!

- sustainable=持続可能な
- the United Nations=国際連合
- for short=略して
- basically=基本的に
- prosperity=繁栄
- shade=日陰
- oxygen=酸素
- absorb=吸い取る
- carbon dioxide=二酸化炭素
- conservation=保全

序章

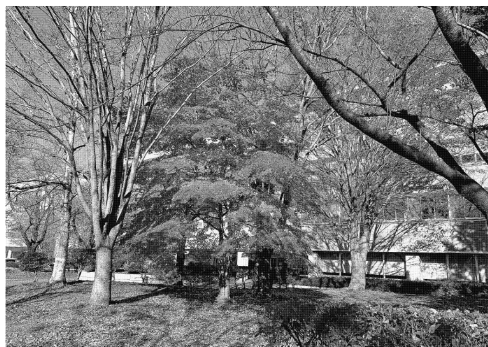
持続可能性って何？

和訳 サステナブルと聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？ 2015年、国連は30年までに持続可能な世界で暮らすために達成すべき17の目標を決定しました。これらは「Sustainable Development Goals」、略してSDGs（持続可能な開発目標）と呼ばれています。

基本的には、人のためになること、地球のためになること、平和のためになること、繁栄のためになること、パートナーシップのためになることをすべきです。例えば、学校の周りに木を植えると、木は暑い日に日陰をつくってくれるし、酸素も出してくれるので、人間にとって良いことです。木は二酸化炭素を吸収し、強い風を遮り、雨水を吸収するので、地球にも良い。怒ったり、悲しんだりしたときに美しい木の下に座れば気分がよくなり、平和な心が保てる。木は保護すれば、紙や家、家具などさま

ざまなものを作ることができるので、植樹は繁栄のために役立ちます。友達と一緒に植樹すると、地球を守るために協力し合うことを学べるので、パートナーシップの面でも良い。

結果的にサステナビリティとは素晴らしい暮らしができる方法なのです。



八戸学院大のキャンパスにも、たくさんの木が植えられています

第33号 執筆者 (掲載順)

楊 麗 栄 (八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科 准教授)

久 保 宣 子 (八戸学院大学 健康医療学部看護学科 講師)

井 上 丹 (八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科 講師)

バリー・グロスマン (八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科 教授)

産 業 文 化 研 究

第33号 (2024)

2024(令和6)年3月31日発行

編集・発行

八戸学院地域連携研究センター

〒031-8588 青森県八戸市美保野 13-98

電話 0178-25-2789

FAX 0178-25-1968
